1998年度
講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

＜９７Ｓ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学部文献演習	０９	通期	４単位	大　谷　信　介

［講義概要・学習目標］

この演習では、日本におけるパーソナル・ネットワーク研究に関する文献を素材として、論文の輪読とそれについての議論をゼミ型式でおこなう。またこの演習では、実証的な研究文献も対象とするので、クロス集計表の読み方、データ解析の手法についてもふれていく予定である。

［講義計画］

前期は、主としてテキストの輪読と議論に当てる。
後期は、担当者が用意する資料や論文のコピーをもとに、データ解析や実証研究の方法等について議論を展開していく。

［成績評価の方法］

平常点とレポートによる総合評価

［参考文献］

［教科書］

松本康編『21世紀の都市社会学 1巻 増殖するﾈｯﾄﾜｰｸ』勁草書房　1995年

＜９７Ｓ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学部文献演習	１０	通　期	４単位	村　上　公　敏

［演習概要・学習目標］

すぐ隣国のフィリピンについて、その歴史の基本的な推移と、この国がかかえる問題点、文化的コンテクストについて考える。

［演習計画］

1章から14章まで年代を追って、順を追って輪読し、質疑応答によって理解を深める。

［成績評価の方法］

日常点、出欠状況で評価する

［参考文献］

多数あるので、適宜指摘する

［教科書］

鈴木静夫 著　物語フィリピンの歴史
1997年、中公新書

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学原論		通　期	4 単位	宮　本　孝　二

［講義概要・学習目標］

社会学原論は、社会学史や現代社会論と内容的に重なるところもあるが、この講義では多様な視点・立場からの社会理論（それぞれが原論となっている）を、統一的視点で体系的に提示する。

社会学はその分析対象が何であれ、行為・相互行為から構造・変動に至る基礎概念の体系を前提にして対象の基本構成を把握しているが、この対象の多様性（さまざまな場、主体、問題）を前提にした基礎概念の体系が、統一的な視点の基盤となる。どの概念に焦点を合わせるか、どの構成的な次元を強調するか、などの選択によって個性的な社会学的な視点と、それに基づく社会理論が成立するのである。古典から最新のものに至るまでの中から主要な社会理論を選び、それらが原論的課題にいかに答えているかを説明し、さらには、それらを総合した社会学原論の全体像に迫りたい。

［講義計画］

《前期》

社会学原論の全体像と基本問題を、まず全般的に提示する。社会学の全体像の概略を説明した後に、社会の本質を示す相互行為の４つの側面（コミュニケーション、サンクション、エクスチェンジ、コンフリクト）や、構造と相互行為の関連、構造の内容規定、場と全体の関連などについて説明する。

《後期》

前期で提示した全体像と基本問題を踏まえつつ、認識論的問題、社会生活の基本的な場（家族、地域社会、組織集団）、先端的ないくつかの社会理論（ギデンズ、ハーバーマス、ルーマン、ブルデューなどの）について、その要点を説明し、検討を加える

［成績評価の方法］

原則として後期試験のみによって評価する。ただし、臨時に行う試験や、自由提出のレポートなどによっても若干加点する。

［参考文献］

その都度指定する。

［教科書］

宮本孝二『ギデンズの社会理論』（１９９８年　八千代出版）

なお、この教科書は現代社会論と共通なので、現代社会論も受講する場合は、重複しないよう注意すること。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学史		通　期	4 単位	竹　内　真　澄

［講義概要・学習目標］

社会学の歴史は、「社会」というものをひとまず特有なかたちで振り返ることから始まる。川のなかの魚は川を知らない、という諺があるけれども、社会の中にいて社会を対象化できるし、またそうせざるをえないのが人間である。しかも社会を対象化して見る、その見方には固有の歴史がある。その見方のなかで最も古典近代的なもの（18世紀的なもの）を出発点に据え、その後１９、２０世紀に至るまで、どのような課題意識でその都度「社会」が発見されたか、またどのような時代的条件のもとで「社会」が問われざるをえなかったか、を構造的に把握する。

それは、逆に言えば、現代に生きる私たちが、どういう社会像と対決し、どういう社会像を抱いていかなくてはならないかを考えるためのミニマムな基準を与えるはずである。その意味で、自分の社会像を社会学者たちの社会像と照らし合わせて検討するような態度で学んで欲しい。

［講義計画］

＜前期＞

私たちの生活にとって最も身近な社会領域である、家族、性、学校、会社、国家、コミュニケーション、世界社会、日本人といった現代的な問題領域を一つ一つ取り上げて、その領域をめぐる社会学者たちの対抗を比較史的に考察する。ここではエンゲルス、フェミニズム、ドーア、パーソンズ、ミード、デュルケイム、ハーバーマス、ウォーラーステイン、戦後日本社会科学等を扱う予定である。前期の結論は、これらの身近な問題領域が結局のところすべて＜近代＞という巨大な深層によって押え込まれ、そこから派生してきた表層であるということである。

＜後期＞

前期に見た成果を踏まえると、問題の根源は＜近代＞とはいったい何かというところへ絞り込まれていった。ところで、＜近代＞に対する社会認識は１８世紀以降三つの立場に分化していく。三つの立場を基礎的に、Ａ・スミス、Ｋ・マルクス、Ｍ・ウェーバーによって代表させることができる。これら三者の社会理論を私たちが今日的にどう受け止めるかに課題が存在する点を後期の中間総括とする。最後に、前期に扱った表層的現実に直接つながる問題構成が世界戦争論（レーニン）と社会心理学（フロム）にあることに触れ、年間の円環は閉じられる。

［成績評価の方法］

年度末試験によって評価するが、授業の進行をみてレポートを課す場合は、両者を総合して評価する。

［参考文献］

Ｔ.パーソンズ『社会的行為の構造』（木鐸社）

Ｊ.ハーバーマス『コミュニケイション的行為の理論　上中下』（未来社）

内田義彦『社会認識の歩み』（岩波新書）

内田義彦『資本論の世界』（岩波新書）

［教科書］

伊藤、大関、小林、鈴木、竹内著『人間再生の社会理論』（創風社）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
文化社会学		通期	4単位	北川紀男

［講義概要・学習目標］

現代の社会は、心の要求ではなく、肉の要求にかなう世界である。精神的な充足よりも物質的な満足が優先して求められ実現される世界である。現代社会の諸処に露呈しているこの種の齟齬を明らかにして、人間と文化の間に存在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念的考察をおこなう。次いで、文化はすぐれて社会的事象であって、社会によって制約されると共に社会を制約するものであることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処変われば、品変わる」とは、分化と社会の関係を巧くいい得て、社会学的にみて極めて興味ある表現である。この視点に立って、現代文化の動向を批判的に考察してみたい。

現代文化は、複雑多岐にわたっており、かつ目まぐるしく変転しており、ともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視点を学びとって欲しい。

［講義計画］

＜前期＞

①イントロダクション
②社会学における認識問題
③文化の概念Ⅰ
④文化とシンボルⅠ
⑤文化とシンボルⅡ
⑥文化とシンボルⅢ
⑦文化と価値
⑧文化と規範Ⅰ
⑨文化と規範Ⅱ
⑩生活様式としての文化
⑪生活意識としての文化

＜後期＞

①文化の定義Ⅱ
②意味形象としての文化
③文化のイデオロギー的性格
④集合表象としての文化
⑤文化とパーソナリティ
⑥文化と文明Ⅰ
⑦文化と文明Ⅱ
⑧イデオロギー論Ⅰ
⑨イデオロギー論Ⅱ
⑩大衆文化論Ⅰ
⑪大衆文化論Ⅱ
⑬高齢化の文化的インパクト

［成績評価の方法］

成績評価は、夏休みの課題として課すレポートと学年末試験に基づいておこなう。

［教科書］

教科書は使用しない。

［参考文献］

参考文献については、4月はじめの時間に「文化社会学参考文献リスト」として配布するので必ず受け取ること。

＜E・S・B生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
文化人類学	01	通期	4単位	小池誠

［講義概要・学習目標］

文化人類学は，自分たちとは異なる文化を調査・研究し，この世界に住む様々な人々の文化的多様性を明らかにしてきた。この授業では，文化人類学独自のアプローチと方法論を通して異なる文化と社会にたいする理解を深めることを目的とする。様々な民族の多様性だけでなく，多様性を通してあらわれてくる人類としての普遍性もみていきたい。私たちの常識とはまったく異なる習慣や社会のあり方をたんに珍しいものとか遅れたものと見なすのではなく，それぞれに独自の価値を見いだす文化人類学の視点を理解してもらいたい。また，今日の国際政治のなかで大きな問題となっている国家と民族の関係についても，より身近な問題として考えてもらいたい。受講者の関心と理解を深めるために，できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を利用する予定である。

［講義計画］

〔前期〕

1　文化人類学とは何か？
2　生物としてのヒト（ヒトはどのようにしてヒトになったのか）
3　人類の文化と言語（文化って何，言語って何？）
4　家族と親族の多様性（私たちにとって家族とは，親族とは何か　そして異文化では）

〔後期〕

1　政治と経済（どうやって人は力をもつか，豊かになるとはどういうことか）
2　国家と民族（民族はなぜ憎み合うのか）
3　宗教と儀礼（人は何を信じ，何を願うのか）

［成績評価の方法］

年度末試験の成績を基本にして評価する。ただし，出席状況，および夏休みの課題レポートと必要に応じて提出を求める小レポートの成績も加味する。

［教科書］

［参考文献］

講義のなかで必要に応じて紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
宗教社会学		通　期	4単位	清　水　夏　樹

［講義概要・学習目標］

科学的合理性を追求したはずの近代人および近代社会は今日、様々な宗教現象に直面している。この逆説性をふまえ、現代社会に果たすその役割や機能を考える。明治以降の新宗教運動の一端を顧み、戦後社会の影の部分、当面する社会の問題領域を理解する手がかりとしたい。E・デュルケイム、M・ウェーバー等先人の業績をはじめ、文化人類学、民俗学上の基礎知識、事例研究にも触れながら、現実の「社会」と生身の「人間」との有機的な結びつきを問い直す姿勢を大切に講述したい。

［講義計画］

〈前期〉
聖と俗。祭りと呪術の構造、わが国修験道等伝統儀礼にみるシンボルの動態構成。宗教の世俗化とその逆反現象―同じく再生（再聖化）とdemonization。カリスマの社会化。

〈後期〉
神仏習合にみる日本人の信仰心の特徴。未開社会における異部族間の交換と呪術儀礼。「市」と前近代的宗教。日本近代化の緊合点を担うものとしての新宗教々団の性格。経済発展と宗教倫理との逆説的な関係。現代社会と宗教ブーム。

［成績評価の方法］

学年末試験に、前期簡易テストおよび簡易レポートの結果を加味・評価する。

［教科書］

随時指示する

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
教　育　社　会　学		通　期	4単位	宮　崎　和　夫

［講義概要・学習目標］

教育社会学は、教育と社会の関係を社会学の方法で研究する科学である。教育の問題は、今や学校のみならず家庭や地域社会など広範囲で大きな社会問題になっていることが多い。

本講義では、現代社会の特質からくる教育の諸問題を積極的に取り扱う。たとえば、学歴社会問題、受験戦争問題、家庭や地域社会の教育力の低下問題等と非行や逸脱行為、少年犯罪との関連、いじめや不登校問題、若者文化と流行、マンガ文化やＴＶ文化の教育への影響問題などいろいろな教育問題と学校組織の構造的問題点との関連を具体的多面的に考察する。

その中で、教育と現代社会の特質との関連を分析する社会学的視点を論究するとともに、現代教育が抱えている諸問題を実証科学的に分析し考察する。

［講義計画］

〈前期〉
1．現代社会の特質と教育
2．情報化社会と教育
3．国際化社会と教育
4．少子高齢社会と教育
5．学歴社会と教育
6．管理社会と教育
7．学習社会と生涯教育

〈後期〉
8．人権問題と教育
9．学力保障と教育機会
10．ジェンダーと教育
11．社会階層と教育
12．学校の官僚制と教師集団
13．社会変動と教育改革

［成績評価の方法］

学年末試験の成績と年間数回提出してもらうレポートなどを総合して評価する。

［教科書］

宮崎和夫（編著）「社会と教育への視点」（創森社）

［参考文献］

1．宮崎和夫（編著）「生徒指導の理論と実践」（学文社 ）
2．宮崎和夫（編著）「現代教育原理」（創森社）
3．麻生　誠他著「学校の社会学」（学文社）

上記の他、講義の進捗に合わせて、授業の中で随時紹介する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会病理学		通　期	4単位	本　村　　汎

［講義概要・学習目標］

本講義は、社会の仕組みの矛盾（社会病理学）がどのようにして人間の生活を破綻させ、あるいはどのようにして人間を問題行動に導いて行くかを明らかにして、その対策に言及していくことを目的としている。

ところで、一口に生活破綻と言っても、その契機は一様でなく、失業によるもの、非行・犯罪によるもの、精神障害・アルコール依存症によるもの、そして離婚によるものとさまざまである。

これらの生活破綻の契機となっている問題行動には、本質的には社会の構造矛盾が、大きく関与している場合が多いが、同時に個人や固体要因や心理的要因も、社会の構造的要因とは相対的に独立したかたちで、これらの問題行動に関与している。

したがって、本講義では生活破綻現象や問題行動に対する個人的要因 の影響にも触れながら、社会の理論と「対象関係」の理論に基づいて、分析をすすめていく。

［講義計画］

〈前期〉1．社会病理学の対象と方法
2．個体要因優位説とその限界
3．対象関係要因優位説の台頭
4．マルクス社会学的アプローチ
5．構造・機能的社会学によるアプローチ

〈後期〉1．離婚の通文化的比較
2．非行・犯罪の実態とメカニズム－国際比較－
3．不登校（学校恐怖症）の社会的メカニズム
4．アルコール依存症と心身症の社会的メカニズム
5．社会病理学の展望

［成績評価の方法］

学年末の試験の成績と通常試験の成績と学習態度などで総合的に評価する。

［教科書］

［参考文献］

本村　汎（著）『家族診断論』（誠信書房）（絶版本図書館にあり）
日本社会病理学会（編）『現代の社会病理』（垣内出版）
望月　嵩・本村　汎（共著）『現代家族の危機』（有斐閣）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
産業社会学		通　　期	4 単位	上　田　　修

［講義概要・学習目標］

いわゆるバブル経済の崩壊とともに、金融業を中心として日本企業に対する評価が著しく低下した。金融不安はいうまでもなく、リストラ、企業倒産による失業者の増大、さらに能力主義の一層の強化は、かつて日本的と称された制度、特徴に対する信頼を揺るがせ、評価の大幅な低下にも結びついている。しかし、戦後の時期に限っても、日本企業における雇用・人事管理をはじめとする様々な特徴・特質に対する評価は、時期によって大きく変わってきた。この点を念頭において、この授業では、日本の企業がいかな特徴を帯びているのかをアメリカ、ヨーロッパの企業と比較しながら検討するとともに、いかに変化してきたのかを明らかにする。同時に、これらの日本的特質とされる事柄が働く人々の生活や社会関係にどのような問題を投げかけているのかを考察する。

［講義計画］

Ⅰ　総論：日本の企業
1　日本企業をめぐる評価とその変遷
2　日本的特質と実態
Ⅱ　各論
1　労務管理：年功制から能力主義へ
2　人事管理：伝統的管理と能力主義
3　雇用管理：終身雇用の動揺と多様化する雇用
4　女性労働の増大：均等法と女性の労働世界
5　賃金：平等と格差
6　労働組合：企業別組合と組合離れ
7　労使関係：労使関係の安定と動揺
8　労働者意識：労働倫理の国際比較
9　企業社会：企業中心社会の功罪

［成績評価の方法］

前期末試験ならびに学年末試験の成績で評価する。配点は前期末 50 点、学年末 50 点の計 100 点。

［教科書］

使用しない。ただし、各パートに入るとき、講義内容の概略（レジュメ）を配布する。

［参考文献］

各パートに入るとき文献リストを配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
産業心理学		通期	4単位	西川一廉

［講義概要・学習目標］

いま産業社会は大きく変わりつつある。そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず，勤労者の生活は職場（会社）を中心に営まれる。そこで起こるさまざまな出来事は，働く人々とその家族に大きく影響する。

ソフト化・サービス化，情報化，コンピュータ化，共働き化，高齢化する社会の中での仕事，職場の人間関係，技術革新と能力開発，人事制度と処遇，雇用環境と中高年問題，職場のストレスとメンタルヘルス等々，職場生活は多様な問題を内包している。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。たとえば会社＝社会と考える人もいれば，会社は社会の１部にすぎないと考える人もいる。さらに女性の労働力化が進む中で，仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。

当講義では，このようにダイナミックに変化する労働環境下での働く人々について，心理学の立場から考える。

［講義計画］

Ⅰ．前期　勤労者の生きがい，働く意欲，職場のメンタルヘルス，仕事と家族など，具体的資料を使って主として勤労意識とその変化について考える。

Ⅱ．後期　コンピュータ化，情報化，産業安全と事故防止，人事管理と能力開発，職場の人間関係など，主として労働環境と働く人々との相互作用について考える。

［成績評価の方法］

成績の評価は期末試験による。

［参考文献］

ＮＩＰ研究会（編）　1995　『現代ライフ・スタイルの分析』　信山社

［教科書］

ＮＩＰ研究会（編）　1997　『２１世紀の産業心理学』　福村出版

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会政策総論		通　期	4単位	小　川　登

［講義概要・学習目標］

社会政策の基本と戦後日本の社会政策について学ぶ。

1、現代社会政策の展開と分析視角　2、資本主義の生成期・産業資本主義段階と社会政策　3、独占資本主義段階と社会政策の発展　4、労働組合政策と労使関係　5、賃金政策と所得分配　6、労働市場政策（とくに雇用調整について）　7、社会保障政策の展開　8、労働者保護政策　9、高齢化社会と労働・社会問題　10、技術革新と労働問題　11、女性労働の問題点　12、ホワイトカラー労働と社会政策　13、現代日本の社会政策の展開と背景

社会政策論の現代的発展である労働経済論と社会保障論は、別に開講されているのでそれで学ぶこと。講義概要の１～13について知的興味をもたない学生は受講しないほうがよい。

［講義計画］

（前期）教科書の１～７について

（後期）教科書の８～13について

［成績評価の方法］

学年末試験。

［参考文献］

授業の中で指示する。

［教科書］

石畑良太郎・佐野　稔（編）「現代の社会政策（第３版）」（有斐閣）

＜９２～９６Ｓ生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会調査実習		通期	4単位	木下栄二

［講義概要・学習目標］
この科目は、社会学部必修科目である「社会調査」の単位取得者を対象に、少人数（最大30人程度）・ゼミ形式によって、社会調査についての深い知識と技術を修得することを目的として開講される。授業では、社会調査計画の立案・調査票の作成・調査の実施、コンピューターを使った調査データの解析・報告書の作成という一連の流れを実際に経験してもらう。授業時間以外にもきわめて多くの学習・作業の時間を必要とするハードな科目であり、積極的な参加意欲と参加の能力を持つものだけを受け入れる。欠席・遅刻が厳禁であることは言うまでもないが、授業についてこれない者も、年度途中で容赦なく切り捨てる。
なお、この科目を履修しようとする者は、同時に「社会学特講（社会調査方法論・データ解析演習）も履修すること。

［講義計画］
年間の授業計画は以下のように予定している。
1．社会調査計画の立案（4，5月）：調査テーマを決めるとともに、調査対象・テーマに関する知識をもち、理解を深めるために、文献リサーチ、ヒアリング等を行う。
2．調査票の作成（6，7月）調査実施のための、質問項目、質問文、仮説の作成を行う。なお、この時期にワープロおよびコンピューターに関する集計解析の技法についての学習も並行して行われる。
3．調査の実施（7～10月）：調査対象者の確定（サンプリング等も含む）、作成した調査票を用いた調査の実施。（夏期休暇中も合宿・補習等がある）
4．コンピューターを使った調査データの解析（10～12月）：得られたデータをコンピューターを使って解析する。ＳＰＳＳという統計解析ソフトへの習熟が要求される。
5．調査報告書の作成（12～1月）：各自分担を決めて、1冊の報告書を作成する。調査報告の書き方、グラフ、図表の作り方について実践的な指導が行われる。

［成績評価の方法］
授業に最後まで参加し、報告書の執筆を担当した者だけが単位認定の対象者となる。欠席・遅刻の多い者、授業態度の悪い者、授業についてこれない者は、年度途中で除名して、授業への参加を禁止する。

［教科書］
特に指定せず。

［参考文献］
原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書

なお、1994年度以降、毎年刊行している『社会調査実習報告書』も目を通しておくことが望ましい。『社会調査実習報告書』は社会調査実習室に常備してある。

その他適宜指定する。

＜９６Ｓ生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学特講 （データ解析演習）		後期	2単位	木下栄二

［講義概要・学習目標］
この科目は、「社会調査実習」と並行して、「社会調査」の単位履修者を対象に、コンピューターを使ったデータ解析法の修得を目標に開講する。
ＳＰＳＳという統計解析ソフトに習熟することを中心に、調査データをコンピューターにて解析する手法について学ぶ。
到達目標としては、
①コンピューター上でのデータの定義、プログラムの作成等
②コンピューター上でのデータの修正・加工の方法について
③２変量の解析法と出力結果の読みとり方
④多重回答データの解析法と出力結果の読みとり方
⑤エラボレーション、偏相関の方法
⑥多変量解析法（因子分析法と重回帰法）
以上の６つの段階を設定する。このうち、⑤の段階以上に到達した者のみを単位認定の対象者とする。毎回、コンピューターを使った作業が中心の授業である。遅刻・欠席は厳禁である。
なお、「社会調査実習」履修者は必ず履修すること。

［講義計画］

①コンピューター上でのデータの定義、プログラムの作成等（２回）
②コンピューター上でのデータの修正・加工の方法について（１回）
③２変量の解析法と出力結果の読みとり方（２回）
④多重回答データの解析法と出力結果の読みとり方（１回）
⑤エラボレーション、偏相関の方法（２回）
⑥多変量解析法（因子分析法と重回帰法）（３回）

［成績評価の方法］
各段階ごとの小テスト＝90%
出席　＝10%

［教科書］
特に指定せず。

［参考文献］
＊ 本学計算機センター発行のユーザーズガイドを事前に熟読しておくこと。

山本嘉一郎・吉村英・竹村和久『パソコンＳＰＳＳ（基礎編）』東洋経済新報社
安田三郎・海野道郎『社会統計学』丸善
駒澤勉・橋口捷久『パソコン数量化分析』朝倉書店

その他適宜指定する。

<96S生対象>

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学特講 （社会調査方法論）		前期	2単位	木下栄二

［講義概要・学習目標］

この科目は、「社会調査実習」と並行して、「社会調査」の単位履修者を対象に、社会調査の方法について総合的な理解をもつことを目標に開講する。授業においては、①概念と仮説、②測定の信頼性と妥当性、③サンプリング理論とその技法、④2変数関連に関する統計的技法、⑤エラボレーションと偏相関、⑥多変量解析の諸技法、の6点の習得を目標とする。

ほぼ毎週、課題を与えて理解の促進をはかるほか、小テストも数回行う予定である。遅刻・欠席は厳禁、課題未提出者も中途でも切り捨てる。かなりハードな講義となるので覚悟して履修するように。

なお、「社会調査実習」履修者は必ず履修すること。

［講義計画］

①概念と仮説（1回）
②測定の信頼性と妥当性（1回）
③サンプリング理論とその技法（2回）
④2変数関連に関する統計的技法（2回）
⑤エラボレーションと偏相関（2回）
⑥多変量解析の諸技法　（3回）

［成績評価の方法］

小テスト＝50%
課題提出＝40%
出席　　＝10%

［教科書］

特に指定せず。

［参考文献］

原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会
安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック』有斐閣双書
P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
育井和夫・直井優『社会調査の基礎』サイエンス社

その他適宜指定する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学特講（社会科学理論の研究）		通期	4単位	沼田　健哉

［講義概要・学習目標］

環境社会学、宗教社会学等の理論の再検討を通じて、社会科学、中でも社会学のパラダイム革新を講義の目標とする。

［講義計画］

<前期>

主として『環境・エネルギー・社会－環境社会学を求めて－』に基づき、環境社会学の理論に関して講義する。なお、アメリカ合衆国の研究と日本の研究の統合を試みる。

<後期>

主として『転換する日本社会』に基づき、宗教社会学の理論に関して講義する。最後に、新たなる理論に関して言及する。

［成績評価の方法］

主として、年度末試験による。

［教科書］

C．R．ハムフェリー／F．H．バトル『環境・エネルギー・社会－環境社会学を求めて－』ミネルヴァ書房

［参考文献］

見田宗介（編）『環境と生態系の社会学』岩波書店
吉田民人・鈴木正仁（編著）『自己組織性とは何か』ミネルヴァ書房
駒井洋（編）『社会知のフロンティア
－社会科学のパラダイム転換を求めて－』新曜社
塩原勉『転換する日本社会－対抗的相補性の視角から－』新曜社

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
ﾏｽ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論Ⅱ		通期	4単位	森本良男

[講義概要・学習目標]

新聞を中心としたマスメディア論・ジャーナリズム論の講義です。マスメディアの影響力が大きくなっていますが、その直面する次のような問題点を探っていきたい。

1、マスメディアの情報の集め方、伝え方。
2、ジャーナリストの仕事、生活、意見。
3、マスメディアの社会的役割と責任。
4、報道の自由とプライバシーの関係。
5、世界のジャーナリズムとマスメディアの歴史。
6、我々はマスメディアの情報をどう読み取ればよいのか。

[講義計画]

（前期）1、いまのメディア状況…マルチメディアと国際化。
2、マスコミの現場から…新聞社を動かす人たちの活動。
3、報道の自由の問題…「プライバシー」「わいせつ」など。
4、情報公開…本当に必要な情報は得られるのか。

（後期）1、アメリカと日本のジャーナリズムの歴史。
2、企業としてのマスメディア…広告、販売制度の問題点。
3、情報化時代をどう生きるか…かしこい読者、視聴者になる方法。

[成績評価の方法]

学年末の試験の成績を主要な評価とし、年間授業中に4ないし5回課す短いレポート（エッセイ）を参考にする。

[参考文献]

適宜、指示する。

[教科書]

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
現代思想		通期	4単位	山崎充彦

[講義概要・学習目標]

「20世紀は戦争と革命の世紀である」とはすでに今世紀半ばに言われたことである。あと3年足らずで21世紀なろうとする今日から振り返っても、この世紀が様々な顔を持っていることが明らかになろう。戦争・革命・冷戦・技術革新・大衆社会・魔女狩りなど、20世紀を形容する言葉は様々であり、とても一言で表現できるものではない。社会が多様な姿をしていれば、そこから生まれる思想もまた多様な姿をとるようになる。

この講義では、多様な姿を見せる20世紀の思想を概観し、その歴史的あるいは社会的な意味を考える。対象とする地域は、担当者の専門上、主としてヨーロッパとするが、必要に応じて比較思想史的な分析を取り入れたいと考えている。

[講義計画]

（前期）
1、ヨーロッパ世紀末
　～19世紀末の思想状況
2、ヨーロッパ知識人の危機意識
　①P・ヴァレリーにおけるヨーロッパの危機
　②E・クルツィウスにおけるドイツ精神の危機
3、革命の思想

（後期）
4、ナチズムとユダヤ人問題
　～知識人とナチ
5、戦後処理をめぐって
　～「ナチズムは特殊か否か」の論争
6、比較思想の観点から
　～同時代人として20世紀思想をどう考えるか

[成績評価の方法]

定期試験によって行うが、ある程度の水準の答案を要求する。

[参考文献]

授業中に指示する。

[教科書]

使用しない。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
比較文化論		通　期	4 単位	柳　父　章

[講義概要・学習目標]

社会科学理論をとり入れた比較文化論に重点をおく。又常に日本のことを考えておきながら異文化を見ていく。
私じしんの外国旅行の経験談やビデオなども多くまじえるつもり。

[講義計画]

〈前期〉日本文化を外側から見た代表的理論の紹介。
『菊と刀』『甘えの構造』騎馬民族説など。

〈後期〉
現代アジアの動きを比較文化論的に考える。
西洋に始まる文化の展望を考える。

[成績評価の方法]

出席はとらない。しかし出席しないとテストは難しくて合格できないだろう。
前期・後期末のテストによる。

[参考文献]

毎回いろいろな文献を紹介する。

[教科書]

柳父章著『一語の辞典　文化』三省堂　1000円

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術総論		通　期	4単位	岩　田　泰　夫

[講義概要・学習目標]

1　社会福祉サービスと援助活動の関係について理解させる。
2　福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。
3　社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程の体系とそこにおける共通課題について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。
4　社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解させる。
5　社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。

[講義計画]

1　社会福祉サービスと援助活動の関係
2　福祉専門職と専門援助技術の関係
3　専門援助技術の歴史的展開
4　社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題
　1）社会福祉援助活動の目的と価値
　2）社会福祉援助活動の原則
　3）社会福祉援助活動の諸過程
　　①受理面接（インテーク）と社会診断
　　②社会治療
　　③終結
　4）社会福祉援助活動の共通課題
　　①契約・介入・課題の意義と方法
　　②面接の意義と方法
　　③記録の意義と方法
　　④評価の意義と方法
　　⑤スーパービジョンの意義と方法
　　⑥ケースマネージメントの意義と方法
5　専門援助技術の体系及び内容
　1）直接援助技術
　　①個別援助技術（ケースワーク）
　　②集団援助技術（グループワーク）
　2）間接援助技術
　　①地域援助技術（コミュニティワーク）
　　②社会福祉調査法
　　③社会福祉運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）
　3）その他の関連専門援助技術
6　社会福祉援助活動の場と専門援助技術
7　専門援助技術と倫理
8　専門援助技術の統合化とチームによる対応
9　専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

[成績評価の方法]

①ミニテストを数回実施する。
②夏休みのレポート
③後期で試験（前期にレポートの提出者のみ受験でき、知識とともに理解を重視した試験と評価）
③の評価を中心にして、それに①②の評価を加味した評価する。

[参考文献]

◆スペクト他編、岡村重夫・『社会福祉実践方法の統合化』（ミネルヴァ書房）
◆H.M.バートレット著、小松源助監訳『社会福祉実践の共通基盤』（ミネルヴァ書房）
◆岩田泰夫(著)『セルフヘルプ運動とソーシャルワーク実践』（やどかり出版）
◆『ソーシャルワーク研究』（雑誌）（相川書房）
◆久保紘章(著)『自立のための援助論』（川島書店）

[教科書]

講義ノート（レジメ）の配布

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術各論ＩＢ		通　期	４単位	石　田　易　司

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉援助技術における直接援助技術の内容と性格・位置づけについて理解させる。
2　集団援助技術（グループワーク）の理論や技法・技術が老人や障害者等の問題解決にどのように適用され、問題解決へと導くのか、介護との関係で事例を通して理解させる。

［成績評価の方法］

毎日の授業中のレポート

［教科書］

『たくさんの？を話し合う本』（朝日新聞大阪厚生文化事業団）

［講義計画］

1　社会福祉援助技術における直接援助技術の位置づけと内容と性格
2　集団援助技術（グループワーク）の理論と技法・技術
①直接援助技術と集団援助技術
②集団援助技術の意義と特徴
③集団援助技術の歴史
④集団援助技術の構造と構成要素
⑤集団援助技術の機能
⑥集団援助技術の援助関係と原則
⑦集団援助技術の展開過程と技術
・準備期
・開始期
・作業期
・終結期
⑧集団援助技術の各種モデル
⑨観察の意義とその技法・技術
⑩記録の意義とその方法
⑪効果測定の意義とその技法・技術
⑫集団援助技術の適用分野とそこにみられる特殊性
⑬スーパービジョンの意義とその方法

［参考文献］

『いきいき高齢者キャンプ』（朱鷺書房）
『痴呆性老人とキャンプ』（朱鷺書房）
『さかさまの星座』（こども書房）
『わしらもいきいき暮らしたい』（エルピス社）
『新しいグループワーク』（ＹＭＣＡ同盟）
『ハート＆セラピー』（朝日新聞大阪厚生文化事業団）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術各論Ⅱ		通　期	４単位	上野谷　加代子

［講義概要・学習目標］

1　間接援助技術の内容と性格について理解させる。
2　地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。
3　社会福祉調査法の理論と技術について、老人や障害者を対象とする具体的調査に基づき理解させる。
4　社会福祉の運営と計画の技術について理解させる。

［成績評価の方法］

授業時の小テスト
学年末テスト、レポート等により総合的評価

［教科書］

『社会福祉援助技術各論Ⅱ』
（新・社会福祉学習双書　第13巻　全国社会福祉協議会）

［講義計画］

1　間接援助技術の内容と性格
2　地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術
1）地域援助技術の概念と基本的性格
2）地域社会の組織化
①地域組織化
②福祉組織化
3）地域援助技術
①地域社会の診断方法
②集団及び組織の診断方法
③住民組織の方法
④社会資源の開発と活用の方法
⑤集団及び組織・機関の調整方法
⑥情報の収集・伝達及び活用方法
⑦記録と評価の方法とその活用方法
⑧地域福祉計画の策定方法
3　社会福祉調査法の理論と技術
1）社会福祉調査の基本的性格と類型
①基本的性格
②諸類型
2）統計調査法における調査技術
①特質と意義
②標本抽出の理論と技法
③調査方法・手順・諸過程及び技術
3）事例調査における調査技術
①特質と意義
②調査方法・手順・諸過程及び技術
4　社会福祉の運営と計画の技術

［参考文献］

『社会福祉援助技術各論Ⅱ』（福祉士養成講座編集委員会 編集　中央法規）

他は授業時提示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
公的扶助論		通　期	4単位	瀧　澤　仁　唱

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。
2　生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。
3　生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解させる。

［講義計画］

1　現代社会と公的扶助
　1）公的扶助理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
2　低所得問題対策の概要
3　生活保護制度のしくみ
　1）目　　的
　2）基本原理
　3）保護の原則
　4）保護の種類と内容
　5）保護の機関と実施体制及び財源
　6）保護施設の種類
　7）被保護者の権利及び義務
4　生活保護の最近の動向
5　生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
　1）組織・専門職
　2）連携のあり方

［成績評価の方法］

論述式筆記試験

［参考文献］

『社会福祉六法　1998(平成10)年版』（新日本法規）

［教科書］

古賀昭典編『新版現代公的扶助法論』（法律文化社）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域福祉論		通　期	4単位	上野谷　加代子

［講義概要・学習目標］

1　地域福祉の理念と内容について理解させる。
2　地域福祉の推進方法について理解させる。
3　地域福祉の現状について理解させる。

［講義計画］

1　現代社会におけるコミュニティと地域福祉
2　現代社会と地域福祉
　1）地域福祉理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
3　地域福祉の構成
4　地域福祉の推進方法
　1）推進の基本的な考え方
　2）公私関係及び役割分担
　3）サービス提供組織とその運営方法
　4）マンパワーの構成及びその動員方法
　5）財源の構成とその調達の方法
　6）地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方
5　地域福祉の現状

［成績評価の方法］

授業時の小テスト
学年末テスト、レポート等により総合的評価

［参考文献］

『地域福祉論』（福祉士養成講座編集委員会 編集　中央法規）

他は授業時に提示する。

［教科書］

『地域福祉論』（新・社会福祉学習双書　第10巻　全国社会福祉協議会）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
家族福祉論		通　期	4 単位	中　村　永　司

[講義概要・学習目標]

1. 現代社会における家族の特質
2. 現代家族がかかえる問題
3. 家族福祉の概念と実態
4. 家族ソーシャルワークの展開
5. 最近の家族福祉の動向

[講義計画]

前期では現代社会の特色と家族の構造、機能の変化をとらえ、現代家族の病理や問題現象を分析する。
後期ではこれらの病理や問題に対して方法論的、技術的対応による実践を目的とした授業を行い、新しい家族福祉の動向をとらえる。

[成績評価の方法]

年度末試験

[教科書]

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
医療福祉論		通　期	4 単位	中　村　永　司

[講義概要・学習目標]

1. 医療の本質と体系
2. 現代社会の医療問題
3. 医療福祉の概念と歴史
4. 日本の医療福祉の展開
5. 英米の医療福祉の動向
6. 医療ソーシャルワークの実際
7. 専門職の倫理

[講義計画]

前期で医療の内容や体系など全体像を明らかにし医療と福祉の接点をさぐる。
後期では専門職としての医療福祉の動向、その展開を究明し、医療ソーシャルワークの本質、必要性について教授する。

[成績評価の方法]

年度末試験

[教科書]

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会保障論		通　期	4単位	里　見　賢　治

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。
2　社会保障制度の体系について理解させる。
3　社会保障の各制度の概要について理解させる。
4　我が国の年金保険について熟知させる。
5　我が国の医療保険について熟知させる。
6　我が国の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。
7　社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。

［成績評価の方法］

定期試験及び平常の成績等で総合的に評価する。

［教科書］

授業時提示

［講義計画］

1　現代社会と社会保障
　1）社会保障理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
2　社会保障制度の体系
3　社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
　1）年金保険
　2）医療保険
　3）労災保険
　4）失業保険（雇用保険）
　5）家族手当（児童手当）
　6）公的扶助
　7）その他関連制度
4　我が国の年金保険制度とその具体的内容
　1）国民年金
　2）厚生年金
　3）各種共済組合の年金
5　我が国の医療保険制度とその具体的内容
　1）国民健康保険
　2）健康保険
　3）各種共済組合の医療保険
6　公的施設と民間保険
　1）公的施策との関係
　2）現状
7　社会保障の実施体制及び専門職

［参考文献］

里見賢治（著）『日本の社会保障をどう読むか』（労働旬報社、1990年）
里見賢治、二木立、伊東敬文（共著）『公的介護保険に異議あり』（ミネルヴァ書房、1996年）
里見賢治ほか（共著）『福祉財政論』（ミネルヴァ書房、1989年）
一圓光弥（著）『自ら築く福祉』（大蔵省印刷局、1993年）
その他、適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉法制 （旧社会福祉の発達と法制）		通　期	4単位	瀧　澤　仁　唱

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉（狭義）の法制度全体の理解

2　社会福祉の権利と日本国憲法の関連の理解

3　社会福祉に関連する諸法規の理解

［成績評価の方法］
論述式筆記試験

［教科書］
開講時に指示する（最近、社会福祉関係法規の改正が多いので、改訂作業が間に合った教科書を使う予定です）

［講義計画］
1　ガイダンス
2　社会福祉の意義
3　社会福祉法の発生
4　憲法と社会福祉法
5　社会保障法の中の社会福祉法の位置
6　社会福祉事業法(1)
7　社会福祉事業法(2)
8　社会福祉事業法(3)
9　社会福祉事業法(4)
10　社会福祉事業法(5)
11　障害者福祉法(1)
12　障害者福祉法(2)
13　障害者福祉法(3)
14　障害者福祉法(4)
15　障害者福祉法(5)
16　障害者福祉法(6)
17　障害者福祉法(7)
18　老人福祉法(1)
19　老人福祉法(2)
20　老人福祉法(3)
21　老人福祉法(4)
22　児童および母子福祉関係法(1)
23　児童および母子福祉関係法(2)
24　児童および母子福祉関係法(3)
25　児童および母子福祉関係法(4)
26　児童および母子福祉関係法(5)

（授業進度および学生の希望により講義順序および内容が変わる可能性があります）

［参考文献］

『社会福祉六法　1998(平成10)年版』(新日本法規)

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
人格発達論		後期集中	4単位	岡井哲明

［講義概要・学習目標］

現代は視界の見えにくい時代である。価値観も多様化している一方で画一的なものを求めなければ不安になるという相反する傾向がある。
自分自身の生き方についても可能性が沢山あるかと思えば全く感じられないというように揺れ幅が大きくなっている。
本講義では、主要なパーソナリティー理論の紹介をしつつ、中でも精神分析理論を中心にライフサイクルとしての人格の発達を概観し、事例を数多くあげながら理解を深め、受講者自らが考える一助としたい。

［講義計画］

<前 期>
1)人格（ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨｰ）についての各派の紹介
2)精神分析の基礎理論（ﾌﾛｲﾄﾞ）
3)乳幼児精神分析とは（ﾒﾗﾆｰ・ｸﾗｲﾝ、D.W.ｳｨﾆｺｯﾄ）

<後 期>
1)発達と自我意識の発達
2)自我同一性の発達について（E.H.ｴﾘｸｿﾝ）

［成績評価の方法］

学年末試験（論述）の成績を最終的な評価とする。

［教科書］

特に指定はしない。

［参考文献］

随時講義中に紹介する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
臨床心理学		通期	4単位	西上裕司

［講義概要・学習目標］

臨床心理学は，「こころ」の学問である。悩み，苦しみ，「こころ」を病んでいるひとびとを援助する実践の学問である。
現代は，いじめ，自殺，登校拒否，家庭内暴力，非行犯罪，薬物依存，ノイローゼ，離婚，震災後遺症等々，多くのひとびとが心理面への援助を求めている。
本講では，先ず，これらの問題を心理臨床がどのように理解し対応しているかを，その背景にある理論に基づいて考察する。次に，実践現場で実際に用いられている心理臨床の方法――心理検査及び心理療法の技法――をできるだけ具体的に学習したい。
「事例こそが教科書である」と言われる。講義は，原則として，実在した事例を題材にして進め，自ら試行的に心理検査を実施したり，ビデオにより実際場面を視聴することによって，「実践の学」である臨床心理学の理解が深まるよう努めたい。

［講義計画］

（前期）
1　実践の学としての臨床心理学
2　心理臨床の実際
3　心理臨床の基礎理論
4　心理アセスメントの技法Ⅰ　面接と行動観察
5　心理アセスメントの技法Ⅱ　性格検査
6　心理アセスメントの技法Ⅲ　知能検査
（後期）
7　心理療法の基本原則
8　個人療法
9　家族療法
10　集団療法
11　臨床心理的地域援助――学校臨床心理士の活動
12　臨床心理士の資格と研修

［成績評価の方法］

前期終了時のレポート及び後期終了時の期末試験によって総合的に評価する。

［教科書］

特に指定しない。

［参考文献］

岡堂哲雄編「心理臨床入門」新曜社
高橋雅春他著「臨床心理学序説」ナカニシヤ出版
福祉士養成講座編集委員会編「心理学」中央法規

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習	０１ ０２	通　期 通　期	４単位 ４単位	大　塚　美和子

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。

［講義計画］

社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。

1　実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。
2　実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［成績評価の方法］

出席とレポート提出を重視

［参考文献］

アレン・E・アイビイ（著）『マイクロカウンセリング』（川島書店）

［教科書］

平岡・宮川・黒木・松本（共著）
『対人援助　ソーシャルワークの基礎と演習』（ミネルヴァ書房）
東　豊（著）
『セラピスト入門　システムズアプローチへの招待』（日本評論社）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習	０３	通　期	４単位	大　西　雅　裕

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。

［講義計画］

社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。

1　実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。
2　実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［成績評価の方法］

・出席、授業での積極的な参加活動等の状況による総合評価とする。
・２／３以上の出席がないと評価対象から除外するので注意すること。

［参考文献］

平岡・宮川・黒木・松本（共著）
『対人援助　ソーシャルワークの基礎と演習』

その他適宜紹介する。

［教科書］

適時、指定する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習	０４ １１	通　期 通　期	４単位 ４単位	郭　麗　月

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。

［講義計画］

社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。

1　実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。
2　実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［成績評価の方法］

講義への参加状況（出席、課題への参加態度）とレポートにより評価する。

［教科書］

適時紹介する。

［参考文献］

岡本民夫編『社会福祉援助技術演習』（川島書店）
アレン・E・アイビイ著『マイクロカウンセリング』（川島書店）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習	０５	通　期	４単位	小　西　加保留

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。

［講義計画］

社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。

1　実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。
2　実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［成績評価の方法］

出席、課題への参加状況、レポート等によって、総合的に評価する。

［教科書］

講義時に提示する。（プリント資料）

［参考文献］

平岡・宮川・黒木・松本（共著）
『対人援助　ソーシャルワークの基礎と演習』（ミネルヴァ書房）

D.エバンス、M.ハーン、M.ウルマン、A.アイビー（著）
『面接のプログラム学習』（相川書房）

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習	０６ ０７	通　期 通　期	４単位 ４単位	藤　田　　譲

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。

［講義計画］

社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。

1　実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。
2　実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［成績評価の方法］

出席状況＝４０％
小テスト＝３０％
レポート（年２回）＝３０％
上記の比重にて評価を行う。

［教科書］

F.P.バイステック『ケースワークの原則（新訳版）』（誠信書房）
武田　建『心を育てる』（誠信書房）

［参考文献］

適時紹介する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習	０８ ０９	通　期 通　期	４単位 ４単位	津　田　耕　一

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。

［講義計画］

社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。

1　実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。
2　実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［成績評価の方法］

出席率、授業への積極的参加度（発表など）、小テスト、レポート提出について評価を行い、総合的にまとめたものを成績評価とする。

［教科書］

久保則夫著『施設職員実践マニュアル』（学苑社）
相澤譲治、津田耕一編著『事例を通して学ぶ社会福祉援助』（仮）
（相川書房）（1998年刊行予定）

［参考文献］

F.P.バイスティック著、尾崎新ほか訳『ケースワークの原則』（誠信書房）
西尾祐吾、相澤譲治編著『ソーシャルワーク』（八千代出版）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習	１０	通　期	４単位	竹　中　麻由美

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。

［講義計画］

社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。

1　実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。
2　実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［成績評価の方法］

平常レポート

［参考文献］

バイスティック『ケースワークの原則』（誠信書房）

［教科書］

授業時、指定する。

＜９６Ｓ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術現場実習１	０１	通　期	――	松　端　克　文
	０２	通　期	――	安　原　佳　子

［実習概要・学習目標］

1　現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2　「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要となる資質・能力・技術を習得する。
3　職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。
4　具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5　関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

［実習計画］

1　実習オリエンテーション（社会福祉現場実習の概略を学ぶ）
2　福祉施設・機関・団体研究（視聴覚学習、現場体験学習、見学実習）
3　専門援助技術実技指導（事例研究・ロールプレイを含む）
4　面接実技指導
5　記録実技指導
6　評価・効果測定実技指導
7　配属実習
8　実習先個別報告と評価
9　業務分析
10　事例研究・実習計画モデル作成
11　実習記録に基づく実習総括レポートの作成
12　個人スーパービジョン（自己覚知）及び集団スーパービジョン
13　全体報告・総括会

［成績評価の方法］

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

［参考文献］

授業時、提示する。

［教科書］

授業時、提示する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉特講 （カウンセリング）		前期	2単位	西上裕司

[講義概要・学習目標]

いじめ，不登校，家庭内暴力，薬物依存，出社拒否，児童虐待，離婚，非行・犯罪等々，現代ほど多くのひとが抱えた問題を抱えている時代ではなかろうか。「カウンセリング」は，こうした「カウンセラー」が健康回復をエンパワーし，クライエントの問題解決を援助する活動であるのである。

技法は，用いるカウンセラーの専門職としての資格や訓練はどんなものであろうか。

講義では，これらの問題について理解を深めるようカウンセリングの実際をできるだけ具体的に紹介しながら進めていく。

[講義計画]

（前期）

1　カウンセリングとは何か
2　カウンセラーの基本的態度
3　カウンセリングの技法
4　カウンセリングの過程
5　カウンセリングの理論
6　カウンセラーの訓練と指導

[成績評価の方法]

前期終了時の期末試験（論述式）によって評価する。

[教科書]

特に指定しない。

[参考文献]

河合隼雄著「カウンセリングの実際問題」誠信書房
前田重治編「カウンセリング入門」有斐閣選書
氏原寛他著「カウンセリング初歩」ミネルヴァ書房

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉特講 （レクリエーション・ワーク）		通期	4単位	石田易司

[講義概要・学習目標]

障害者、高齢者、子どもなどの福祉対象者へのレクリエーション指導の技術を身につけることを目的に、セラピー、グループワークなどの理論に基づいて、野外活動、音楽、クラフト、ゲーム、スポーツ、子どもの遊びなどを体験する。

[講義計画]

毎回テーマを定めて、指導法を体験する。
①外出介助（車いす、視力障害者のガイドヘルプなど）
②野外で食事　③ネイチャーゲーム　④イニシアティブゲーム　⑤ニュースポーツ　⑥ネイチャークラフト
⑦子どもの遊び　⑧ペーパークラフト　⑨竹細工
⑩オリエンテーリング　⑪ウォークラリー　⑫昔遊び
⑬楽器づくり　⑭合唱　⑮合奏　⑯救急法　⑰キャンプ　⑱障害者スポーツなど

[成績評価の方法]

毎日の授業中のレポート

[教科書]

高齢者のレクリエーション指導〔I〕〔2〕
（朝日新聞厚生文化事業団）

[参考文献]

いきいき高齢者キャンプ（朱鷺書房）
痴呆性老人とキャンプ（朱鷺書房）
さかさまの星座（こども書房）
わしらもいきいき暮らしたい（エルピス社）
新しいグループワーク（YMCA同盟）
ハート&セラピー（朝日新聞大阪厚生文化事業団）

《インテグレーション科目》

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
社会福祉特講 （社会福祉の動向分析）		通期	4単位	松端克文

［講義概要・学習目標］

今日、社会福祉に従事する職員は約 100 万人に及んでいる。「福祉は人なり」といわれるように、社会福祉の仕事は他者の人格の尊厳を大切にし、生活上の問題を持つ人の問題の緩和・解決を図りつつ、その人の自立や自己実現のために専門職としての自己を役立てようとするきわめて倫理的な行為である。それだけに福祉専門職としての資質が厳しく問われることになる。本講では、福祉専門職として備えておくべき知識、技能、判断力などのうち、特に知識の習得に力点をおき、国家レベルでの各種プランの策定や児童福祉法の改正、公的介護保険の成立、さらには社会福祉事業法の改正の動きなど政策・制度の動向もふまえつつ、福祉専門職のあり方を探っていくことにする。なお、福祉各分野の事情に精通した学外講師（社会福祉士取得者）にも分担していただき、講義全体を通じて受講生が社会福祉士資格の取得に必要な知識を習得できるようにすることを目標にする。そうしたことから、社会福祉士国家試験受験予定の４回生の受講を歓迎する。

［講義計画］

〈前期〉
1．社会福祉専門職の動向―社会福祉士を中心として―
2．社会福祉の歴史・思想・理論・制度
3．今日の社会福祉の動向
4．老人福祉・老人保健
5．社会保障（医療・年金）・公的扶助

〈後期〉
6．児童福祉・母子福祉
7．障害者福祉
8．地域福祉
9．社会福祉援助技術
10．その他

［成績評価の方法］

出席、発表、レポート提出、後期テストなどで総合評価する。

［教科書］

○厚生統計協会編『国民の福祉の動向　1997 年』（厚生統計協会）
○その他随時プリント資料配布

［参考文献］

○厚生省編『平成 10 年版　厚生白書』（ぎょうせい）
○社会・介護福祉士受験ワークブック編集委員会編『社会福祉士受験ワークブック』上・下（中央法規）

○『社会福祉士国家試験解説集』（中央法規）
○『97 年 社会福祉士模擬問題集』（中央法規）
○『97 年版 第 10 回 社会福祉士国家試験予想問題集』（誠信書房）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
国際関係論		後期集中	4 単位	松村昌廣

［講義概要・学習目標］

国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後の国際政治のダイナミズムを理論的に把握する。できるだけ具体的事例を用いて、以下の諸点を論じる。

1　導入
　1）国際関係学と国際社会における日本
　2）国際関係学の諸分野、基礎概念及び一般システム論的理解
　3）社会科学における認識・方法論的論争と国際関係学
　　(1) 現実主義VS理想主義　(2) 伝統主義VS科学主義
　　(3) 誇大理論主義VS反誇大・個別理論主義　(4) 講師の見解
2　総論
　1）基本的捉え方
　　(1) 現実主義　(2) 多元主義　(3) 世界主義　(4) 講師の見解
　2）分析レベル
　　(1) 政策決定システム　(2) 国家システム　(3) 国際システム　(4) 講師の見解
3　各論
　1）軍事的側面
　　(1) 安全保障　(2) 紛争　(3) 講師の見解
　2）経済的側面（貿易・金融・投資・技術・援助・開発）
　　(1) 市場機能中心主義　(2) 国家機能中心主義
　　(3) 資本形成中心主義　(4) 講師の見解
　3）秩序づけのための組織化側面
　　(1) 国際法　(2) 国際機構　(3) 国際レジーム
4　結論
　1）冷戦後の国際構造
　2）日本の国際行動とその将来

［講義計画］

［成績評価の方法］

・出席状態　50%
・第１回持ち帰り試験　20%（５月の下旬）
・第２回持ち帰り試験　30%（７月の中旬）

［教科書］

P. ビオティ＆M. カビ（共著）『国際関係論』（彩流社）
ロバート・ギルピン（著）『世界システムの政治経済学』（東洋経済新報社）
（注）講義では引用しないが、試験の範囲である。必ず購入しておくこと。

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
国際政治史		通期	4単位	鈴木博信

[講義概要・学習目標]

主題は，「冷戦史：1945～1991」です。

――共通の敵ナチ・ドイツが倒れるや，米ソ両大国間で宣戦布告もなくはじまり，半世紀近くつづいたあと，戦勝パレードもなくおわった《Cold War》の時代，を回顧・展望し，「われわれはどんな時代に生きているのか？」を洞察する足場を固めたい。

巨大なスケールのこの主題を組織的・包括的に取扱うことは断念し，冷戦時代の主要な事件いくつかに焦点を絞る。そして，事件にかかわった政策決定者など当事者のナマの証言や回想をできるだけ紹介する形で，話をすすめる予定。

[講義計画]

1. ヨーロッパにおける冷戦の起源：1945～49
2. 共産中国とアジアにおける冷戦：1945～53
3. 「平和共存」と核対決：1953～64
4. アメリカとヴェトナム：1945～75
5. 米ソ両大国と中国：1949～80
6. 1970年代 米ソ間「デタント」（緊張緩和）の進行と停滞
7. レーガン，ゴルバチョフ，そして冷戦のおわり：1981～91
8. 回顧と展望

[成績評価の方法]

1. 年度末試験（レポートにかえることあり），
2. 必要に応じて課すレポート，

を総合して判定する。

[教科書]

[参考文献]

○高坂正堯「現代の国際政治」講談社学術文庫 1989
○仲 晃「パックス・アメリカーナの転回――ジャーナリストの見た現代史」岩波書店 1992
○アダム・ウラム，金谷木博信 訳「膨張と共存――ソヴェト外交史」全3巻 サイマル出版会 1974
○森本良男「冷戦――人と事件」サイマル出版会 1995
○ジョン・シャーニク，金 利光訳「激動の安紀」TBSブリタニカ 1989
○フローラ・ルイス，友田 錫 訳「ヨーロッパ」上下2巻 河出書房新社 1990

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
地域研究Ⅰ（欧米の政治と社会） （旧地域研究Ⅰ）		通期	4単位	村山高康

[講義概要・学習目標]

アメリカ（合衆国）とヨーロッパ（おもに西欧諸国）の政治と社会の現状分析を中心にして講義する。ただし前期は、欧米政治の現状を理解するため、第二次大戦後の冷戦史を概観しながら、現代欧米世界の政治・経済・社会の歴史的背景を考察する。後期には、とくに冷戦構造崩壊後の欧米世界の現状分析を中心に講義する。アメリカについては、近年の大きな社会変動のもつ意味やクリントン政権の政策についての分析を行い、ヨーロッパは欧州連合（EU）の現状と今後の動向について、国家主権・安全保障・経済統合・民族問題・地域主義などの課題を順次とりあげ分析する。

[講義計画]

＜前期＞1．冷戦構造成立の背景
2．ヨーロッパにおける冷戦
3．米ソの体制間競争と冷戦
4．冷戦構造の崩壊
5．冷戦後の世界

＜後期＞1．アメリカ社会の変動
a．クリントン政権登場の背景
b．アメリカの伝統的政治思想の混迷
2．ヨーロッパ世界の動き
a．欧州連合へのあゆみ
b．欧州連合の現状と問題点
3．欧米世界の直面する課題

[成績評価の方法]

前後期数回のレポートと学年末試験による総合評価。

[教科書]

特定の教科書は使用しない。

[参考文献]

講義の中で随時指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域研究Ⅱ（ロシア・東欧の政治と社会） （旧地域研究Ⅱ）		通　期	4単位	鈴　木　博　信

［講義概要・学習目標］

「ソビエト帝国の興隆と崩壊」が主題です。

［Ⅰ］ソビエト連邦（「内帝国」）の東欧支配（「外帝国」形成）はどのようにして，はじまったか？

［Ⅱ］東欧諸民族はそれにたいし，どのように抵抗してきたか？

［Ⅲ］東欧圏（「外帝国」）はどのようにしてクレムリンの支配から離脱したか？（1989）

ソビエト連邦本体（「内帝国」）はどのようにして崩れ去ったか？（1991）

以上の過程をたどることによって，「共産党一党支配制＋命令経済」を骨格として形成されていた「ソビエト帝国」が，どのような特質をもつ帝国であったか，に迫る。

［講義計画］

［Ⅰ］ソビエト連邦の東欧支配はどのようにして，はじまったか？

1. ヤルタ　1945：第二次大戦と東欧再分割
2. ベオグラード　1948：「もっとも新しい帝国」に亀裂

［Ⅱ］東欧諸民族は，くりかえし自立・独立をもとめてたたかった

3. ブダペスト　1956：「雪どけ」と「再凍結」
4. プラハ　1968：「人間の顔をした社会主義」から戦車の夏へ

［Ⅲ］東欧圏はどのようにしてクレムリンの支配から離脱したか？

5. グダニスク　1980：社会主義国における「古典的労働者革命」
6. ベルリン　1989：ゴルバチョフ登場と「外帝国」解放
7. モスクワ　1991：「内帝国」の瓦解
8. さいごの帝国か？

［成績評価の方法］

1. 年度末試験（レポートにかえることあり），
2. 仕事に応じて課す小レポート，　を総合して判定する。

［教科書］

［参考文献］

○アダム・ウラム，鈴木博信訳「膨張と共存―ソビエト外交史」全3巻 サイマル出版会 1974
○川端香男里ほか監修「ロシア・ソ連を知る事典」平凡社　1990
○伊東孝之ほか監修「東欧を知る事典」平凡社　1993
○チェハノフスキ，梅本洋志訳「ワルシャワ蜂起　1944」筑摩書房　1989
○木戸蓊「激動の東欧史」中公新書　1990
○笹本駿二ら編「東欧の動乱」（ドキュメント現代史10）平凡社　1972
○南塚信吾編著「東欧革命と民衆」朝日選書　1992
○佐瀬昌盛「チェコ悔恨史―かくて戦車がやってきた」サイマル出版会　1983
○マーチン・メイリア，白須英子訳「ソヴィエトの悲劇」上下2巻　草思社　1997

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
地域研究Ⅲ（発展途上国の政治と社会） （旧地域研究Ⅲ）		通　期	4単位	村　上　公　敏

［講義概要・学習目標］

世界における特定地域（この講義では東南アジア地域を中心に）の社会や文化の捉え方を、次の三点の方法論的視覚から論ずる。

1　東南アジアの人種分布とエコロジカルな諸特徴を通じて、地域とは何か、地域研究の目標とは何かの基本を考える。
2　先史から古代までの社会で形成された東南アジア社会と文化の基本特徴（基層文化）をつかむ。
3　世界史の一部、あるいは、他地域からの文明的・文化的影響、それへのこの地域からの対応関係から、地域社会・文化の歴史的形態が浮きぼりにされてきたことを明らかにする。それは、中国文明、インド文明、イスラム文明、西欧文明に対する東南アジア地域住民の受容と対応の内発的営為のプロセスとその結果であるため、そのプロセスを通じて社会的・文化的にこの地域のもつ個性および普遍性を考察していく。

［講義計画］

〈前期〉
1．「地域」社会・文化の捉え方の一般論　4月
2．東南アジアの基層文化　5月・6月
3．中国文明と東南アジア　6月・7月

〈後期〉
1．インド文明と東南アジア　9月・10月
2．イスラム文明と東南アジア　10月・11月
3．西欧近世・近代文明と東南アジア　11月・12月
4．終論　東南アジア地域社会・文化　1月

［成績評価の方法］

前期末に中間テスト、後期末に本テストをペーパー試験で行う。

［教科書］

村上公敏（著）『東南アジア地域文化の捉え方』（晃洋書房）

［参考文献］

多数になるため特定できない、その都度示す。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会地理学		通　期	4 単位	藤　森　勉

[講義概要・学習目標]

社会地理学は、人文地理学の一分野であるが、その研究対象や研究方法についてはまだはっきり規定されておらず、人文地理学とほぼ同義語とも考えられる。
本講義では、人間の社会生活・社会活動が「地域」とどう関わってきたか、どんな問題があるかを事例研究の成果をもとに具体的に解説する。
その場合、地域の大きさや社会集団の大きさによって、それぞれ異なった関係が見られるので、前期は大スケールの場合を、後期は小スケールの場合を取り上げる。

[講義計画]

〔前期〕小スケールの地域として日本国内の諸地域について地域社会問題を解説する。
まず、人口分布・人口構成を概観した上で
1）米作農村　2）島の漁村　3）過疎山村　4）地方小都市
5）巨大都市　などを対象にそれぞれの地域の実態と問題点を明らかにする。

〔後期〕大スケールの地域としてオーストラリア大陸を対象とし、次の課題を解説する。
1）先住民族アボリジニーの生活と社会
2）イギリス植民地社会とアボリジニーの社会
3）連邦成立と中国人・日本人移民
4）第2次世界大戦後の日豪関係

[成績評価の方法]

定期試験による。

[参考文献]

必要に応じ紹介する。また、地図・資料等のプリントを発行する。

[教科書]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際政治事情研究		通　期	4 単位	捧　堅二

[講義概要・学習目標]

国際政治の理解には、第1に歴史的な認識、第2に限りなくリアルな視点が必要だと思う。つまり歴史的パースペクティヴと批判的リアリズムが必要なのだ。
この観点から、現在の国際政治の動向を明らかにしたい。また現在の国際政治の深い認識に必要な歴史的理論的知識の獲得をもめざしたい。

[講義計画]

(1) 国家とグローバリゼイション
(2) 国家と民族
(3) 日本と歴史環境：歴史的考察（古代から現代まで）
(4) 国際政治の現在：日米安保体制
(5) 国際政治の現在：冷戦後のアメリカの世界戦略
(6) 国際政治の現在：東アジアの情勢
(7) 国際政治の現在：現在進行中の国際情況の分析

[成績評価の方法]

レポート数回と年度末の試験による

[参考文献]

必要に応じて紹介する

[教科書]

なし

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際社会特講（国際関係の裏舞台）		後　期	2 単位	松　村　昌　廣

［講義概要・学習目標］

国際関係概説としての性格を持たせながら、常識ではなかなか考えられないような国際政治の実態を紹介する。公開されているが、なかなか普通は目にしないような材料を使って、学生諸君に分析的・実証的に思考する素養を身につけさせることを、本講義の目標とする。政治学や国際関係論などの理論的訓練を受けていないことを前提に講義を進めるので、社会学部以外の学生や、社会学部生で国際社会コースを選択していない者でも十分に理解できるよう配慮する。実際の国際関係の展開を踏まえながら、Topicsを選んでゆく方針である。又、当然に指定参考書、教科書はない。

［講義計画］

［成績評価の方法］

出席率と学期末（前期末）試験（レポート）とを総合的に考えて評価する。
試験課題としては「分析的な」（意味に注意！）感想文を考えている。

［教科書］

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
倫理学		通　期	4 単位	倉　本　香

［講義概要・学習目標］

「私は何をなすべきか」、「私はいかに生きるべきか」と考えたことはありますか？　私達は行為の仕方の善悪をどのように決めることができるのでしょうか。あるいは、そもそも私達は自分の行為を自由に選択することができるのでしょうか。それが可能であるとするならば、どのような意味においてでしょうか。

まずはじめに「自由な意志」について考えてみたいと思います。というのは、人間が行為の仕方を自らの意志で自由に選択できてこそ、それに対して善悪を問う、という倫理的問題が生じるからです。

ところが近代以降、この「自由な意志」を持った人間は、一体何を選択してきたのでしょうか。近代的な人間の成立とともに出現した倫理的問題を、現代に至るまで跡付けてみます。これらの問題の考察が契機となって、皆さんが自分の行為や生き方を複数の視点から自覚的に選び取ることができるようになることを望んでいます。

［講義計画］

1．自由、自律の思想（カント）
2．コミュニケーションの倫理
3．「学ぶ」ことと「生きる」こと
4．本来的な生き方とは何か（ハイデガー）
5．近代的主体の成立（フーコー）
6．近代的主体の問題（ナチズムの思想、生命倫理の諸問題）
7．功利主義の思想と現代倫理の問題

［成績評価の方法］

レポート、自己評価

［教科書］

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
人間工学概論		通期	4単位	三戸 秀樹

［講義概要・学習目標］

人間と機械のかかわりは古い．この人間と機械の関係から発生した人間工学に関する基礎的理解を深め，今後の人間と機械の関係のあり方について言及する．近年の機械系，とくにコンピュータリゼーションの進歩にともなう，人間らしい“人間－機械”の関係が実現しつつある反面，労働場面では，非人間的な“人間－機械”の関係が観察される．この非人間的側面は，かって労働にあった「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている．さらに，一部では産業ストレス時代ともいわれ，真に人間中心的な視点に基づいた人間工学導入が緊要である．

単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく，働く人々の個々のおかれている状況・状態にたえず疑問を発しながら，「どうしてそうなのか」「どうすれば良くなるのか」を，人間工学的に考える姿勢を重視する．人間を中心にすえた視点から人間工学の基本を学びとって欲しい．

［講義計画］

<前　期>

(1)はじめに
　人間工学の定義，労働態様の変化，

(2)人間特性
　生体次元，感覚入力系，覚醒水準，生体リズム，反応特性，性差，疲労，蓄積性疲労，

<後　期>

(3)人間と機械
　マン・マシン・インタフェース，頚肩腕障害，振動障害，ＶＤＴ作業，テクノストレス，

(4)応用人間工学
　障害者，二次的障害，高齢化，安全人間工学，交通科学，

(5)労働の快適化
　労働の人間化，ゆとり，

［成績評価の方法］

テストとレポートを予定

［参考文献］

労働と健康の科学研究会(編)「労働と健康の科学」(労働経済社)
三戸秀樹ほか(著)「安全の行動科学」(学文社)
千田忠男ほか(著)「労働科学論入門」(北大路書房)

［教科書］

横溝克己・小松原明哲(共著)「エンジニアのための人間工学(改訂)」(日本出版サービス)

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
民族問題論		通期	4単位	小柳伸顕

［講義概要・学習目標］

1997年，北海道旧土人保護法が廃止され，「アイヌ文化振興法」が成立しました。日本政府がはじめて単一民族国家を正式に否定したことになります。アイヌ民族を民族として認めたことになります。日本社会で民族問題を論じるとき，アイヌ民族抜きにはできません。アイヌ民族問題と取り組むことが，その一歩です。そして，その延長線上に在日外国人，特に朝鮮人（韓国人，朝鮮人）を問題にすることが重要です。また，外国人労働者問題もアイヌ民族や在日朝鮮人抜きに語ることはできません。

［講義計画］

前期・日本政府は，明治以来，アイヌ民族をどう扱ってきたか。北海道旧土人保護法の成立過程を検討する。また，「保護法」を貫く排外思想は何に由来するかを合せて考える。そして「アイヌ文化振興法」を支える思想についても検討する。

後期・日本社会の民族問題は，アイヌ民族，琉球処分，台湾の植民地政策，そして朝鮮の植民化を抜きに考えられない。これらを検討するとき，今日の社会で外国人労働者うけている差別の根源にたどりつくことが出来る。

［成績評価の方法］

授業への参加とレポート．（※参加は単なる出席を意味しません）．

［参考文献］

・山川　力（著）『明治期アイヌ民族政策論』未来社
・花崎皋平（編）『近代化の中のアイヌ差別の構造』明石書店．
・小沢有作（編）『近代民衆の記録・在日朝鮮人』新人物往来社
・宮島　喬（著）『外国人労働者迎え入れの論理』明石書店．

［教科書］

前期　菊池勇夫（著）『アイヌ民族と日本人』朝日新聞社
後期　田中宏（著）『在日外国人』岩波書店

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　　当　　者
西洋社会史 （旧　社会科学概論Ｉ）		後期集中	４単位	種田　明

［講義概要・学習目標］

本講義は社会科学の、なかでも社会史を中心に、阿部謹也氏の歴史研究を解説し、現代世界に生きる私たちが抱える諸問題を読み解くための基本認識、あるいはそのためのヒントを探ることを目的としている。

社会科学とは、政治学・経済学・社会学などを基軸として、現実の社会・世界を解剖し分析する学問の総称である。日本においても、また世界においても１９７０年代からさまざまな「社会史」が巷間に溢れ出てきている。社会科学の中の社会史は、総合的な視角から人間と人間集団（地域、民俗、社会…）を「全体」として捉えていくべきものであろう。狭義としての、人間活動の特定領域を対象とする部分史ではなく、「社会（全体）史」として広義に考えてゆきたい。

阿部社会史の方法は、人と人／人とモノとの「関係」（絆・交換・贈与…）をドイツ中世からさぐり、日本との比較を試みるものである。読み解くなかから「生きる」「生活する」ことの意味を考え、学問の厳しさと楽しさを味わってほしい。知的好奇心旺盛な、積極的に質問・疑問を投げかけてくれる受講生の参加を期待している。

［講義計画］

３分の２　ドイツ中世社会史の諸問題を通して、現代につながり現代と交差するものはなにかを考え講義解説していく。
Ｕ・エーコ「薔薇の名前」のＶＴＲをみて、修道院について概観する。

３分の１　ドイツ中世都市フランクフルトについての研究（都市史）の枢要について解説講義する。

［成績評価の方法］

出席・平常（小テスト）　　１０＋２０％　欠席５回は受験資格なし
試験（講義最終日）　　７０％

［教科書］

阿部謹也『社会史とは何か』筑摩書房、１９８９年
小倉欣一・大澤武男『都市フランクフルトの歴史』中公新書、１９９４年

［参考文献］

講義中に提示する。

「社会学科基礎演習」について

社会学部教授会

1992年度より社会学部社会学科新入生を対象に開講されたこの「社会学科基礎演習」は、社会学部教員によって質疑応答可能な少人数クラスのゼミナール形式で運営される。そこでは、特定のテーマを選択し、それを研究するさまざまな方法や、その結果を報告したりレポート・論文に作成したりする基礎的な方法について指導をうけることになる。すなわち以下の４つの項目である。

①テーマの発見：

社会的現実への興味関心なくして社会学部の勉強はできない。

現実の中に問題を発見する方法がまず学ばれねばならない。

②情報収集：特定テーマについて研究するのに必要な情報を探し収集する方法は、そのテーマに応じて多種多様である。情報源の種類は、単行本、雑誌、新聞などの活字メディアはもちろん、映像・音声メディアと多彩であり、さらには現場・現地における観察やインタビューや体験などもある。それらの情報を効率よく正確に探索し発見し入手する方法について学ぶ。

③情報解読：収集された多種多様な情報は解読され整理されねばならない。

たとえば本の読み方であり、新聞・雑誌の読み方である。あるいはテレビ・映画の見方であり、観察の仕方、体験の反省的検討の仕方である。それらの方法について学ぶ。

④口頭報告、討論、レポート・論文作成：

解読された情報は蓄積しておくだけではなく、表現され伝達されなければならない。

ゼミナールにおいて口頭で報告したり、討論し合ったり、さまざまなテーマについて小論文を書き添削指導を受けたり、また、年間を通じて特定テーマを選択し論文を書いたりすることを通して、研究発表の方法を学ぶ。

大学での４年間の学習において、また、卒業後の職業生活において必要なのは特定テーマについて情報を収集し・蓄積し、それらを解読・整理し、自分の問題関心や視点に基づいて再構成し、それを表現・伝達する力である。それは即席では身につかない。そこでこの基礎演習に参加して、その力を少しでもつけておくことが望ましい。ただし、開講される基礎演習の各クラス案内に書かれているように、取り上げられる具体的テーマや、指導において重点の置かれる項目にはかなりの違いがあるので、案内をよく読んで選択していただきたい。

科目名称　社会学科基礎演習
対　　象　社会学部社会学科１回生
形　　式　ゼミナール
定　　員　30名

「社会学科基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	頁
01 02	上田　修	現代社会の諸相を考える	233
03	鈴木　富久	人間形成と現代社会	233
04	鈴木　博信	国際ニュースを視る眼・その土台	234
05	竹内　真澄	現代日本の社会文化	234
06	竹中　英紀	社会学の「読み書き討論」・入門 －現代日本の文化と社会を対象に－	235
07	中村　秀之	メディアについて考える	235
08	西川　一廉	心について考える	236
09	沼田　健哉	現代社会と社会学	236
10	村山　高康	日本と世界の現状を考える	237
11	森本　良男	21世紀の世界と日本を考える	237

〔注意〕

(1) ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とするが、予備登録（先着順受付）によって受講者の決定を行う。

(2) どのクラスも出席を重視する。一定の成果を上げるためには、授業への継続的な出席が欠かせないからである。

(3) 学則上、この科目は、社会学部社会学科教育科目のコース選択科目（4単位）に位置づけられている。

(4) 募集は次の日程で実施する。

〈日　時〉　4月7日（火）　9時20分～15時00分

〈申込受付〉　学務課窓口

〈注〉曜日・時限、時間割コードについては、授業時間割表でよく確認すること。

＜９８ＳＳ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０１ ０２	通　期 通　期	４単位 ４単位	上　田　修

［演習概要・学習目標］

このゼミの主要な目的は、自ら考え、調べ、報告し、討論するという作業を経ることで、学ぶことの楽しさを再発見することにある。すなわち、各自の問題関心にそって文献を調べ、資料を系統的に収集することで論点を導き出し、さらにそれにもとづいて報告をおこない、討論する楽しさを味わいながら研究能力の向上を図る。具体的対象は、各人の問題関心にまかせるが、採り上げられた問題……例えば、宗教、校則・いじめに典型される教育問題、家族の変容……が社会学的にいかに説明できるのかを、演習計画に示したプロセスをとおして考える。

［成績評価の方法］

①出席、②報告内容、③討論への参加、④レポートを総合勘案しておこなう

［教科書］

［演習計画］

１　班の構成とゼミの進行について
①最初に、各自の問題関心に基づくグループ化（班構成）をおこなうとともに、②文献・資料の調査方法、③報告の仕方、レジュメの作成について説明する。
２　班別報告
１によって構成した班毎に報告をうけ、小グループ（３～４グループ）に分かれて討論をおこなう。討論の後、全員で討論の内容を再確認する。
３　ディベート
各班の報告が一巡した後、死刑廃止といった是非の立場がはっきりと分かれるテーマをいくつかたて、数人ずつにわかれ、パネルデスカション形式でディベートをおこなう。（全員がパネルデスカションに参加）
４　班別報告
ディベートの後、再び各自の問題関心にそって班別構成を再編し（希望者のみ：最初の班構成でもよい）、班別報告の第２ラウンドをおこなう。この際、グループ討論は、第１ラウンドよりも規模を大きくしておこなう。これによって徐々にではあれ、多人数のなかでも発言できる力をつけていく。
５　レポートの提出
ゼミの最終段階において、報告・討論を踏まえたレポートの作成をおこなう。

［参考文献］

その都度、指示する。

＜９８ＳＳ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０３	通　期	４単位	鈴　木　富　久

［演習概要・学習目標］

人間はつねに時代の子であり，時代とともに，社会の変動につれて変容するが，その変化をもっともよく写す鏡はいつも子供達である。次代を担う青少年の人格形成に果たす学校の役割は大きい。しかし，学校だけが教育機能を担っているのではない。家庭や地域社会も教育機能を果たし，さらにじつは社会環境全般がいつも最大の「教育者」なのである。学校教師といえどもその影響下にあるのを免れ得ない。こうした事柄は，社会学では「社会化」の問題として主題化されている。
本ゼミは，各人がこの視座から自己をみつめなおして自己形成の歩みをふりかえり，その家庭的社会的諸環境や時代背景の変動を考えることによって，新たな自己の発見と「社会」および「社会学」への開眼に誘うことをねらいとする。このため，青少年を主人公とする日本映画の名作を戦前から時代順に観ることにより，社会の変動と人間の変容を追体験することを共通の基盤にしながら，講義，討論，文献研究，論文作成等を多面的におこなう。

［成績評価の方法］

出席点，レポート（論文および映画・読書の感想文），討論およびゼミ活動全般への参加度等の総合評価。
＊ゼミナールでは無断欠席は認められない。

［教科書］

シング『狼に育てられた子』福村出版
深谷昌志『孤立化する子どもたち』日本放送出版協会
乾彰夫『日本の教育と企業社会』大月書店

［演習計画］

前期　1.『狼に育てられた子』読後討論。
2.映画「生まれてはみたけれど」（1932），「一番美しく」（1944），「わが青春に悔いなし」（1946），「青い山脈」（1949）等を観て，戦前・戦中・戦後という時代の変化と人間を考える。
3.若干の文献研究と討論
後期　1.ビデオ「60年安保と岸信介」，映画「キューポラのある街」（1962），「非行少女」（1963），「私が棄てた女」（1969），ビデオ「全共闘運動」，映画「学校」（1993），ビデオ「昭和史・激動の中で子供達は」，等を観て，昭和期，特に高度成長期から今日にいたる社会と人間，その変化の問題を考える。
2.学年末の総仕上げの論文作成に向け，テーマ別の班別編成をとってグループ討論をする。テーマには選択肢を設ける。

［参考文献］

Ｅ・フロム『自由からの逃走』東京創元新社
リースマン『孤独な群衆』みすず書房
Ｇ・ジョーンズ，Ｃ・ウォーレス『若者はなぜ大人になれないのか：家族・国家・シティズンシップ』新評論
城丸章夫『管理主義教育』新日本出版社
金田茂郎『子ども文化の復権』大月書店
教育科学研究会編『現代社会と教育』全６巻，大月書店
柴野・菊池・竹内編『教育社会学』有斐閣
山田和夫『日本映画 101年』新日本出版社
＊その他，授業中に多数紹介する。

＜９８ＳＳ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０４	通　期	４単位	鈴　木　博　信

[演習概要・学習目標] 研究テーマは，「世界をよむ」ための基本トレーニング。

国際社会の尊敬される構成員としてみとめられるためには，軍国主義も，その裏返しとしての空想的平和主義も，ともに有害無益である。軍事的価値を不当に過大評価する軍国主義に劣らず，軍事的価値を不当に過小評価する空想的平和主義も，大きな危険を伴う。どちらも考え方が独善的であって，国際的視野を欠いた一国主義的，一面的な立場であり，「世界をよむ」にはぜひ克服する必要がある。

広く根を張っている空想的平和主義を克服するため，戦前・戦中の日本の軍国主義をふりかえる。それをふまえて現代国際政治のいくつかの重要問題の分析をこころみる。

[演習計画]

《前期》

○ 教科書1. を念頭に，報告・発表・討議をおこなう。

○ これと平行して，資料（新聞・雑誌・単行本）のしらべ方・あつめ方，図書館の活用法，などを学習する。

《後期》

○ 教科書1. をおえたあと，教科書2. の報告・発表・討議にうつる。

○ 小レポートを課すことを開始するので，レポート作成のよりどころとなる「工具書」として，高橋昭男「仕事文の書き方」（岩波新書 1997）を夏休み中に読了するとともに，後期は常時携行のこと。

前・後期をつうじて，1泊2日の「合宿」を最低1回以上おこなう予定。

[成績評価の方法]

1. 出席点（毎時間の出欠状況）を最重視，2. 平常の発表・報告，3. 年度末のレポート（400字×15枚以上），の3点をふまえて判定する。

[教科書]

1. 才津木正道「軍国日本の興亡 ―日清戦争から日中戦争へ」中公新書 1995
2. 仲　晃「パクス・アメリカーナの転回 ―ジャーナリストの見た現代史」岩波書店 1992
3. 世界史年表，世界史地図を常時携行すること

[参考文献]

随時指示します。本代を惜しまないこと！

＜９８ＳＳ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０５	通　期	４単位	竹　内　真　澄

[演習概要・学習目標]

「現代日本の社会文化」を考える。「現代」とは何か、「日本」とは何か、「社会文化」とは何を意味するか、という３パートを縦横に追いかけてみたい。

[演習計画]

テキストに沿ってメンバーに順に分担報告してもらい、みんなで討議をする。三冊読んだ上で、メンバーの課題意識を検討し、私の側から、新しい方向を提示する。

[成績評価の方法]

出席、研究報告、発言内容、レポートなどから総合的に評価する

[教科書]

加藤周一『転換期　今と昔』かもがわブックレット
加藤周一『戦後世代の戦争責任』かもがわブックレット
渡辺　治『日本の大国化は何をめざすか』岩波ブックレット

[参考文献]

清　眞人『ヴィジョンは＜世界＞をつれて』はるか書房

＜９８ＳＳ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０６	通　期	４単位	竹　中　英　紀

［演習概要・学習目標］

本山ちさとの『公園デビュー』（DHC）という本の冒頭に、こういう描写がある。公園の砂場で遊ぶ子どもたちを取り囲む母親の集団、それとは少し離れたところにあるブランコやジャングル・ジムのコーナーに集まっているもう一つの母子の集団、そして、古ぼけたベンチで日なたぼっこをしている老人たちの集団、「公園は、この三つの集団にかっきり分かれている」。

この本は、公園の「ハハ族」に注目して、その集団を作っているのがどういう人たちか、なぜ人は集団になると他人に対して壁を作るのか、といった問題を深く掘り下げたものだ。難しいことは何もない、これこそ社会学である。

この演習では、このようなおもしろい本を見つけてきて、仲間と語りあえるような楽しい読書サークルを作っていきたい。

［演習計画］

〈前期〉

(1)『社会学の作法・初級編』をテキストに、「社会学の本」はどこにあるか、どのようにレポートを書けば自分の考えを他人に正確に伝えることができるか、討論はどのように進めていくかなど、社会学の「読み書き討論」に関する基本的な力の習得をめざす。

(2)『信仰の現場』を読んで、現代日本の文化と社会について理解を深める。

(3)『公園デビュー』を読んで、地域社会と近隣集団について理解を深める。

〈後期〉

(4)身近な文化現象や社会集団を対象にした研究レポートの作成をめざして、発表・討論をくり返す。

［成績評価の方法］

出席状況や発表・討論、レポートの内容を総合して評価する。

［教科書］

野村一夫『社会学の作法・初級編』（文化書房博文社）

ナンシー関『信仰の現場』（角川文庫）

本山ちさと『公園デビュー』（DHC）

［参考文献］

苅谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社）

木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）

田代菊雄編『新版 大学生のための研究の進め方・まとめ方』（大学教育出版）

＜９８ＳＳ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０７	通　期	４単位	中　村　秀　之

［演習概要・学習目標］

「メディア」について気になること、興味があること、問題だと思うこと等について、あらためて考え、話し合ってみよう。テレビ、雑誌、音楽、広告、漫画、映画から、パソコン、ケータイ、ポケベル、プリクラ、各種イベントなどなど何でもいい。各自が問題を設定して、文献や映像資料などを調査し、考えた結果をプリントにまとめて、ゼミの仲間にぶつける。そこから活発な議論が始まり、お互いの見方の違いがはっきりしてくれば、大成功。そうした作業を積み重ねていくことで、専門的研究のための基礎的な技法と作法を身につけるのが、この演習の目的だ。

［演習計画］

参加者の人数、問題関心などによって調整するが、おおむね以下の順で進める。

〈前期〉

1. 演習を進めていくにあたっての予備的な講義。
2. 各自の問題関心の明確化、この１年のテーマの設定。
3. 問題関心にそったグループ化。
4. 資料の探索、レジュメ作成、報告の仕方などについての実践的な講義。
5. 一般的な問題についてのグループ報告。

〈後期〉

6. 各自のテーマについての個別報告と年度末レポートの作成。

＊夏休みなど、簡単な中間レポートを課すことがある。

［成績評価の方法］

出席、中間レポート、報告、年度末レポート。

［教科書］

特に使用しない。

［参考文献］

適宜指示する。

＜９８ＳＳ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０８	通期	４単位	西川一廉

［講義概要・学習目標］

「こころ」の時代といわれて久しい。だれもがモノよりココロだという。しかし何かが起こるまでは一向に心について考えようとしない。
豊かになったという。しかしどこか満たされないむなしさがただよう。モノの豊かさと心の豊かさが混同されているからである。
私たちはどれだけ自分の心について知っているだろう。どれだけ自分を理解しているだろう。他人のことはよく分かる。しかし残念ながら自分自身については，ほとんど何も知らない。一度，ゆっくり心について考えてみてはどうか
当ゼミには心理学の立場から，心について考えてみようと思う人に応募してほしい。

［講義計画］

心理学関係の文献を読み，あるいは資料を収集し，さらに社会で起こっているさまざまな出来事をクラスで報告し、討議することを基本とする。それらを通じて人間の心について考え，自己理解を深める。

［成績評価の方法］

出席，報告，討議への参加をもとに総合的に評価する。

［教科書］
未定。

［参考文献］
追って指示する。

＜９８ＳＳ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	０９	通　期	４単位	沼田　健哉

［講義概要・学習目標］

環境問題を中心とする現代社会の諸問題を、社会学の立場から分析できるようになることを目標とする。
演習は、教科書ならびに随時指定する文献に基づき行われるが、それらを通じて情報収集、情報解読、討論、レポート・論文作成の手法についても学ぶ。

［演習計画］

＜前期＞

主として『環境社会学のすすめ』に基づき、環境問題を中心として演習を行なう。なお、環境問題に関するデータを多読する予定である。

＜後期＞

主として『現代社会の理論』に基づき、現代社会の諸問題を社会学の理論によって分析することを試みる。

［成績評価の方法］

出席およびレポートに基づく。

［教科書］

飯島伸子『環境社会学のすすめ』丸善ライブラリー
見田宗介『現代社会の理論』岩波書店

［参考文献］

石弘之『地球環境報告』岩波書店
見田宗介（編）『環境と生態系の社会学』岩波書店
環境庁地球環境部（編）『地球温暖化』読売新聞社

＜９８ＳＳ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	１０	通　期	４単位	村　山　高　康

［演習概要・学習目標］

今の日本も世界もともに大変動の時代を迎えています。この基礎演習では、このような現代世界の政治・経済・社会の現状を理解し分析するための方法や理論について、基本的な研究のためのイントロダクションを行います。各種文献・新聞・雑誌・映像ソフトなどを素材にして、ゼミ参加者がこれから大学で研究を進めるための方法や手順を学べるようにプログラムを考えました。

このゼミに参加したら、まず第一に自分がどんなテーマ（複数でもよい）に取り組みたいかを明確に定めてください。つぎに、なぜ自分はそのテーマを取り上げたいのかという理由をまとめておいてください。（ノートにメモをしておくこと）。ゼミの始めに全員に発表してもらいます。

ゼミでは、討論を活発に行いたいものです。遠慮なくどんな初歩的なことでも発言する人を歓迎します。ゼミはアット・ホームな雰囲気がなにより大切です。ここでたくさんの友人ができるよう、積極的にゼミのメンバー相互に交流してください。コンパにはぜひ全員参加してください。にぎやかなゼミにしたいので、おしゃべり好きをとくに求む。

［演習計画］

1．日本と世界の現状を理解するための映像ソフトの視聴と研究
2．各種の新聞と雑誌を読む
3．下名代世界のさまざまな問題についての討論
4．研究レポートの書き方
5．専門文献へのガイダンス

［成績評価の方法］

出席の重視と日常のゼミでの積極的な発言や活動を総合評価する。

［参考文献］

ゼミで随時指示する。

［教科書］

朝日・毎日・読売・日経などの全国紙をかならず１紙は購読。また「文芸春秋」「中央公論」などの月刊誌や、週刊誌なども必要に応じて購入すること。

＜９８ＳＳ生対象＞

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学科基礎演習	１１	通　期	４単位	森　本　良　男

［演習概要・学習目標］

間もなく２１世紀になるが、環境、高齢化、教育の荒廃、さまざまな宗教紛争や難民問題など、世界と日本はどうなっていくのだろうか。こうした問題意識から日本と世界の動きを探ることで、社会学的なものの見方を養ってほしい。

その一歩として、みんなで新聞や本を読み、わいわい議論をしていく。そのあと各自がテーマを決め、必要な資料、情報を集めて分析し、発表し、文章にまとめる。その過程で、自分と社会、自分と世界がどのようにつながっているかを考えていきたい。

［演習計画］

（前期）社会の仕組み、その動きを解明するのに必要な事柄、方法として①新聞を毎日読んで、主要なできごとについてメモをとり、自分の意見をまとめ、みんなで議論する②本の読み方、図書館の利用法などを調べ、それぞれ何冊かの本を読んで報告し、議論する。

（後期）各人が自分のテーマにしたがって、資料の収集、分析をやる。その結果を授業で報告し、議論する。そのうえで、年度末に４００字１０枚以上のレポートにまとめて提出する。

［成績評価の方法］

1、出席状況と授業への準備、授業中の報告、発言など平常の成績評価が５０点満点。

2、年度末の４００字１０枚以上のレポートが５０点満点。

以上合わせて最終評価を行なう。

［参考文献］

［教科書］

教科書、参考文献とも追って指示する。

＜９８ＳＳ生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学基礎講義	１１	通期	４単位	鈴木富久

［講義概要・学習目標］

社会学があつかう問題は、すでに各人の日常社会生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前期では、「人間とは何か」という問題の考察を出発点にして、行為・社会関係・社会構造・文化・社会規範・組織・集団・社会化・国家・市民社会、等々の社会学の基礎概念を講じ，併せて新旧の代表的社会学者達の諸理論の学習をしてもらう。後期では、歴史的現実の次元に移って世界システム論の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと議論を展開する。後期は、ビデオ学習を多用する。

全体の学習目標は、専門としての社会学の視野や方法論，基礎知識を学ぶと同時に、それを通じて、学問的な探究と思考のスタイルをも習得することにあるので、論文・その他のレポート執筆をたびたび課する予定である。

受講生の姿勢としては，毎日，新聞を読み，テレビニュースを観る習慣を身につけ，社会問題の特集番組等にも関心をはらって，自らの関心と問題意識を発展させるように努めることが大切である。

［講義計画］

【前期】
序．社会学とは何か
第Ⅰ部．基礎概念
§１．社会的存在としての人間
§２．行為と文化・社会規範
§３．組織と集団
§４．「社会化」と国家
＊併行して諸社会理論の学習（『人間再生の社会理論』各章の読書感想文提出。夏休み課題：自分で選択した一冊の古典・基本文献のブックレポート提出）

【後期】
第Ⅱ部．世界社会学の視野と現代日本社会
§１．世界システム論と受動的革命論
§２．日本の近代化過程
§３．戦後日本社会の展開（ビデオ学習）
NHK「欧米人の見た日本の戦後」
①戦火のあと，②飛躍的復興，③奇跡の高度成長，④オイル・ショック
NHK「戦後50年・あの時日本は」
①60年安保と岸信介，②三池争議
＊それぞれの感想文提出
§４．現代日本社会の構造的把握に向けて

［成績評価の方法］

①出席点、②前期・後期試験成績、③レポート成績（論文・読書感想文・ビデオ感想文等）、等を総合して評価する。（レポートの遅延提出は減点。）

［教科書］

鈴木富久『社会学講義ノート』（私製）
小林・他『人間再生の社会理論』創風社

［参考文献］

松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社
ウォルフレン『日本・権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり）
渡辺治『「豊かな社会」日本の構造』労働旬報社
見田宗介『現代社会の理論－消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書
社会学の専門辞典は必需である。推薦：浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣。
その他、上記『社会学講義ノート』132 －133頁参照。

＜９８ＳＳ生対象＞

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会学基礎講義	１２	通期	４単位	竹内真澄

［講義概要・学習目標］

私たちが生きる過程でどのような種類の「社会」に遭遇するか考えてみると、まず普通は家族（言葉）に出会う。そして友だち→買物（市場）→学校→会社（仕事）などという具合いに、おおむね狭くて単純な関係から広くて複雑な関係へと広がっていく。だが、人間が社会と遭遇する時間的な順序は、現実における諸「社会」間の規定－被規定の論理的序列に対応していない。むしろ逆に、例えば、経験される最初の「社会」である家族は、後続の会社や学校（あるいは国際関係）によって強力に規定されているのである。経験にとって後から登場する遠隔化された「社会」のほうが、前に知った「社会」のあり方を制約＝決定している。身近な「社会」を遠隔化されたメカニズムとの関係で「再」経験するのが、社会学の面白さと言ってよい。講義ではこのことを不断に考慮しながら、原理的なテーマへ降りていくことと、ぎゃくに今日的なテーマへ昇っていくことを絡めていきたい。

［講義計画］

前期
まず、社会学的な発想に入門するために、大きな基礎的テーマとして、＜人間と社会との歴史的なつながり＞について考えることにしたい。とくに、人々が当り前だと思っている行動様式がいかに歴史的、社会的に異なっているのかを具体的な事例から考える。社会学の一般的な図式、接近方法、概念を頭に入れる。これは、具体から抽象へ進む思考訓練である。

後期
現代日本の社会問題の諸相を考える。社会学は結局のところ、なんらかのかたちで社会問題の解決のために役立つものであるし、またそうでなくてはならない。前期に、具体から抽象された諸概念を引き出したのと対照的に、後期は具体的な社会問題を単純な概念の総合として論理的に再構成し、診断をくだす。なぜ問題が生じるか、どうすれば問題を解決できるかをセットで考察する。

［成績評価の方法］

出席、レポート、年度末試験の成績を中心に総合的に評価する

［教科書］

適宜指示する

［参考文献］

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫
大塚久雄『社会科学の方法』岩波新書
室井義雄『南北・南南問題』世界史リブレット、山川出版社
大田昌秀『沖縄のこころ』岩波新書
渡辺治『現代日本の政治を読む』かもがわブックレット
東大社会科学研究所編『現代日本社会１』東大出版会
鹿野政直、堀場清子『祖母・母・娘の時代』岩波ジュニア新書

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会学基礎講義	１３	通　期	４単位	中　村　秀　之

［講義概要・学習目標］

社会学は人間の関係性についての学問であり、その関係性を、いかなる水準や領域に見て取るかによって、実に多様な対象を扱うことができる（自我あるいは「私」から、国際社会や地球環境にいたるまで）。言い換えれば、どのような対象についてであれ、それまで考えてもみなかった何らかの関係性に気づいて、驚いたり嬉しくなったり不安になったりしたら、人はすでに「社会学する」ことを始めているわけだ。

本講義の主要な目的は、社会学の基礎知識を学習することにあるが、同時に、「関係性への気づき」のさまざまな具体例を知ることによって、自らの「気づき」のセンスを磨くことも課題としてほしい。

［講義計画］

〈前期〉テキストが取り上げている主題から、以下の項目を順次解説してゆく。
社会のなかの人間、場面と体面、都市の人間関係、社会病理現象、
変容する家族、階層移動と学歴、潜在的機能と予言の自己実現。

〈後期〉前期に引き続き、以下の項目を解説する。
自殺と社会、逸脱と社会変動、宗教と資本主義、自由からの逃走、
文化と価値、集団と個人、システムと生活世界。

＊テキストが取り上げていない主題や、隣接学問領域（精神分析やフーコーの言説分析など）についても、適宜言及してゆく。

［成績評価の方法］

学年末試験。中間レポート。小テスト。

［教科書］

井上俊・大村英昭（編著）『改訂版　社会学入門』（放送大学教育振興会　1993年）

［参考文献］

奥村隆（編著）『社会学になにができるか』（八千代出版　1997年）
太田省一（編著）『分析・現代社会　制度／身体／物語』（八千代出版　1997年）
その他、随時紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
現代社会論		通　期	４単位	宮　本　孝　二

［講義概要・学習目標］

社会学は現代社会を成立させてきた近代化というトレンド（社会変動の方向性、趨勢）の中で、全体社会の動態を把握しようとする知的努力として誕生した。この意味で現代社会論は社会学史と大きく重なる。そこでこの講義では主として第２次世界大戦後に登場したものに限定する。また、現代社会学はすべて現代社会を分析対象としているので、現代社会論はマクロなトレンドを基軸として政治、経済、社会生活、文化などの諸領域を全体的に関連づけて把握することを目指すものに限定する。それらは市民社会論、大衆社会論、産業社会論など戦後日本の社会学に次々と登場した諸類型にまとめられているため、この講義ではまずそれらの紹介を行い、引き続いて今日現れている主要なトレンドをできるだけ多数取り上げ、それぞれを基軸に構築される現代社会論の諸相と要点について解説する。

［講義計画］

《前期》
現代社会論の基本構成と基本課題を示し、多様な現代社会論を総括するいくつかの試みを紹介した後、現代社会の諸類型、すなわち市民社会論、大衆社会論、産業社会論、管理社会論、脱産業社会論、情報社会論、世界社会論などを順次説明し、さらにいくつかの有名な著作の内容を紹介する。

《後期》
今日見られる多様なトレンド（改革の時代、アイデンティティ・ポリティックスの時代、福祉国家から福祉社会へ、世俗化と脱世俗化、近代家族の変容、暴力化と脱暴力化など）を取り上げ、それぞれを基軸にした現代社会論の構築の方法を示す。

［成績評価の方法］

原則として後期試験のみによって評価する。ただし、臨時に行う試験や、自由提出のレポートなどによっても若干加点する。

［教科書］

宮本孝二『ギデンズの社会理論』（１９９８年　八千代出版）
なお、この教科書は社会学原論と共通なので、社会学原論も受講する場合は、重複しないよう注意すること。

［参考文献］

その都度指定する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会心理学		通　期	4単位	沼田　健哉

［講義概要・学習目標］

現代の社会心理学は、マクロな分析がやや不足しているので、社会心理学を学びつつ、マクロな次元とミクロな次元との双方を分析できるような視野を持てるようになることが講義の目標である。
なお、心理学的社会心理学と社会学的社会心理学、アイデンティティ、若者と宗教、非言語コミュニケーション、若者と恋愛、若者と職業、流行、被服行動、エコロジー意識と行動等が主たる講義の内容としてあげられる。

［講義計画］

＜前期＞

社会心理学の歴史と現状
社会的存在としての個人
社会における対人関係・対人行動

＜後期＞

集団組織と人間
生活の中の集合・社会現象
社会学的社会心理学

［成績評価の方法］

年度末試験による。

［教科書］

高木修（編）『社会心理学への招待』有斐閣

［参考文献］

松井豊『恋ごころの科学』サイエンス社
永田良昭、船津衛（編著）『社会心理学の展開』北樹出版
S．B．カイザー『被服と身体装飾の社会心理学』北大路書房
広瀬幸雄『環境と消費の社会心理学』名古屋大学出版会
金児曉嗣『日本人の宗教性』新曜社

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
家族社会学		通　期	4単位	野々山　久　也

［講義概要・学習目標］

家族社会学は、家族とは何かに始まり、今日の家族に関するさまざまなテーマに挑戦する。家族など毎日経験していて分かり切っていると思いがちだが、なかなかそうではない。今日の家族に関する諸問題、たとえば夫婦別姓や非婚ライフスタイルなどについて考えるとき、改めて家族とは何かについて考えてみることは重要である。

いま家族は、そして結婚は、大きく変貌しつつある。従来からのワンパターンのモデルでは捉えられない状況が現れてきている。つまり家族多様化の時代の到来である。この多様化の時代にはシナリオを自ら創作し、演出しなくてはならない。

講義では、家族の多様化を紹介しつつ、今日の家族のありようを家族社会学的に解き明かしていきたい。本年は、多様化する家族ライフスタイルの解明とともに、とくに「いま家族に何が起こっているのか」について歴史的視点から捉えてみたい。

［講義計画］

【前期】
1．家族とは
2．家族研究の歴史
3．基本的用語の解説
4．配偶者選択の過程
5．結婚
6．子供の社会化の過程
7．家族危機の理論
8．家族の内部構造
9．現代社会と家族福祉

【後期】
1．家族の役割構造
2．家族の勢力構造
3．家族の情緒構造
4．家族システムの理論
5．家族関係の病理
6．家族と親族関係
7．家族解体の理論
8．離婚と再婚
9．老後の家族関係

［成績評価の方法］

学年末試験の成績を最終的な評価とするが、夏休みにレポート作成の課題を課すので、必ず提出すること。レポートの課題は、夏休み前に発表する。この夏休みレポートについては、指定された期限内での提出なしのときには学年末試験の受験資格はない。

［教科書］

野々山久也ほか（編）『いま家族に何が起こっているのか』ミネルヴァ書房、1996年

［参考文献］

（1）野々山久也（編）『家族福祉の視点』ミネルヴァ書房、1992年
（2）カンター＝レア（野々山訳）『家族の内側』垣内出版、1988年

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
村落社会学		通期	4単位	清水由文

［講義概要・学習目標］

第2次大戦後日本の食糧自給率は飢餓から飽食への変化に対応して漸次低下し続け現在では30%代に低下している。そのような問題を含めて日本の食糧問題の検討は現代日本における重要課題の1つである。その問題は日本の農業の変化と食の多様化への変化という2つの側面から明らかにされる必要がある。そこで最初に日本の農業・農村がどのように変化したのかを明らかにし、つぎに食の変化を食の近代化に焦点をおいて検討することにしたい。後期には日本の農業・農村がおかれた歴史的変化のなかで、日本の農民あるいは農家はどのような生活をしてきたのかという農村の社会構造を日本の伝統的家族である「家」と村落共同体である「村」という2つの軸から明らかにするとともに、そらにその変化を追究してみたい。

［講義計画］

(前期)
1. 戦前の日本農村の特質
2. 農地改革の特質と意義
3. 戦後日本の農村の変化
4. 日本農村・農業の現状
5. 新食料法の特徴と問題点
6. 食の高度成長
7. 食の多様化
8. 環境からみた農と食

(後期)
1. 伝統的家族としての「家」の特質
2. 日本農村における家族の現状
3. 日本農村の親族組織の特徴
4. 日本の村落概念の特徴と実態
5. 日本の村落構造の特徴と現状
6. 日本の村落の類型論
7. 日本の村落の組織と運営

なお以上のようなテーマに対して適宜ビデオを用いることにより、より明確に理解できるようにしたい。

［成績評価の方法］

成績の評価は、年度末の試験結果と年間2回のリポートの提出、講義中の小リポートの総合評価によって行う。なお、試験問題は論述形式による。

［教科書］

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
都市社会学		通期	4単位	大谷信介

［講義概要・学習目標］

都市社会学の困難さは、それが対象とする＜都市＞を定義すること自体が難しいことに起因している。しかし、人間は日常生活のなかで、なんとなくではあるが＜都市的なるもの＞（たとえば「都会」−「田舎」という言葉に包含される意味内容に象徴されるもの）の存在を実感していることも確かな事実である。「この各個人が＜都市的＞と実感している特徴や特性＝＜都市的なるもの＞本質は、いったい何なのだろうか？」この講義では、これまでの都市社会学が追及してきた中心的テーマである上記の疑問を、都市住民のパーソナル・ネットワークの実証分析を通して実際に解明していくことを目標としている。また講義の中では、世界の都市社会学の研究動向、日本都市社会学研究の問題点を整理するとともに、最近注目を集めているネットワーク研究の動向についても整理検討していく予定である。

［講義計画］

＜前期＞
1 Introduction(この講義の目的･内容について)　2 都市とは？　3 都市の定義に関する諸説　4 都市社会学の研究主題　5 シカゴ学派と新都市社会学　6 シカゴでなぜ都市社会学が発展したか？　7 人間生態学の議論（パーク）　8 アーバニズム論（ワース）　9 下位文化理論（フィッシャー）　10 アメリカの都市と日本の都市　11 現代都市社会と個人主義・人間関係　12 欧米におけるﾊﾟｰｿﾅﾙﾈｯﾄﾜｰｸ研究の系譜　13 ｿｰｼｬﾙ･ﾈｯﾄﾜｰｸ論の展開

＜後期＞
1 村落・家族社会学における社会関係研究　2 都市社会学研究における生活構造論　3 日本の人間関係研究の特徴と問題点　4 ﾈｯﾄﾜｰｸ論の先駆的調査研究　5 ﾊﾟｰｿﾅﾙ･ﾈｯﾄﾜｰｸ測定方法の問題点　6 日本都市住民のｲﾝﾃﾞｨﾒｲﾄ･ﾈｯﾄﾜｰｸ　7 ﾊﾟｰｿﾅﾙ･ﾈｯﾄﾜｰｸ構成の日米比較　8 個人的諸属性とﾈｯﾄﾜｰｸ　9 都市化はﾊﾟｰｿﾅﾙ･ﾈｯﾄﾜｰｸにどの様な影響を与えるか　10 都市的ﾈｯﾄﾜｰｸの特徴　11 大都市大学生と地方都市大学生の友人ﾈｯﾄﾜｰｸの相違　12 ﾈｯﾄﾜｰｸの異質性と都市の文化創造性　13 <まざりあい>の社会学

［成績評価の方法］

期末試験および平常の提出物等を総合評価する

［教科書］

大谷信介『現代都市住民のパーソナル・ネットワーク』ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房　1995年

［参考文献］

C.S.ﾌｨｯｼｬｰ『都市的体験』未来社　1997年
松本康編『21世紀の都市社会学 1巻 増殖するﾈｯﾄﾜｰｸ』勁草書房　1995年
鈴木広編『現代都市を解読する』ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房　1992年
奥田道大編訳『都市の理論のために』多賀出版　1983年
鈴木広編『都市化の社会学』誠信書房　1965年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コミュニケーション論		通　期	4単位	西川一廉

［講義概要・学習目標］

人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団，社会を構成し，その中で生きている。　人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの，それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには，他者より先に，まずコミュニケーションをする自分が自分をどのように認知しているかを知らなければならない。その上で，他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。むしろ身ぶり，手振りから始まって顔面表情など，いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がよく用いられる。さらに話すこともさることながら，聴くことの重要性を知らなければならない。
当講義では，個人と，個人から小集団までの対人コミュニケーションについて心理学の立場から考える。

［講義計画］

Ⅰ．前期　自己概念と自己開示，対人相互作用や対人魅力など，日常の具体的出来事を取り上げながら，あるいは実習をまじえながら，コミュニケーションの基本について考える。

Ⅱ．後期　バーバル／ノンバーバル・コミュニケーションや態度変容（説得）、あるいは小集団における人間関係のダイナミックスなどについて考える

［成績評価の方法］

成績評価は期末試験による。

［教科書］

J．B．ベンジャミン（著）『コミュニケーション』　（二瓶社）

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マス・コミュニケーション論Ⅰ		通　期	4単位	中　村　秀　之

［講義概要・学習目標］

マス・コミ論の入門講義である。まもなく21世紀を迎えようとしている現在、マス・コミやマス・メディアをめぐる状況は大きく変容しつつある。新聞やテレビなどがわざわざ「従来型マスメディア」などと呼ばれる一方、伝統的に「マス・コミュニケーション論」と呼ばれてきた学問領域そのものも、こんにちでは、単に「メディア論」と称されることが多くなっている。これらの用語上の変化は現実の変動の兆候ないし結果である。
本講義では、このような、コミュニケーションからメディアへの力点の移動、そして、「マス」の消滅といった変化を手がかりにして、現代の（マス・）コミ／メディアの様々な問題に、文化社会学的にアプローチしてゆく。マスコミによって形成されるリアリティとそれにたいする人々の態度、メディアに媒介された欲望充足の諸相、「マス＝大衆」の登場から「市民」の前景化に至る20世紀の文化変容と社会変動など、日常的な現象を社会学的に相対化して批判的に考えるための基礎づくりが、本講義の目標である。

［講義計画］

1. 序論
　(1)現代日本の「傷」としての「ビートたけし／北野武」とその変容。
　(2)現代日本のマス・コミの政治経済学：ビジネスと権力。
2. マス・コミュニケーションとメディアの社会理論。
　(1)コミュニケーションとリアリティ構成（「うわさ」から「パニック」まで）。
　(2)メディアと欲望充足：身体性の諸相（カラオケ、ゲーム、ケータイなど）。
3. 現代マスコミ論の地平とその彼方？
　(1)ブーアスティンの「擬似イベント」論の地平（ニュース、有名人、広告など）。
　(2)モードとしてのリアリティへ？（「陰謀理論」、「やらせ」など）。
4. 「マス」の誕生と消滅
　(1)「大衆」から「市民」へ。
　(2)カルチュラル・スタディーズの視角（パンクやヒップホップなど）。
5. メディア社会の「芸術」、その闘争（映画を中心に）。

＊以上は、およその枠組と項目の一部であり、細部を変更することはありうる。

［成績評価の方法］

学年末試験、中間レポート。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

随時紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際法		通　期	4 単位	軽　部　恵　子

[講義概要・学習目標]

あなたは将棋やアメフトの試合を見ていて、「ルールがわからず残念だ」と思ったことはありませんか？もしルールを知っていれば、息詰まるゲームの展開にもっと興奮できたことでしょう。
あなたは国際ニュースを聞いていて、意味がよくわからないとか、難しい言葉が多すぎると思ったことはありませんか？もし、国際社会のルールである国際法を知っていれば、ニュースの内容はずっと理解しやすくなるでしょう。

国と国の約束ごとである国際法は、政治・軍事はもちろん、経済・社会・環境・人権など、様々な分野で私たちの生活に深くかかわっています。例えば、国際法の知識があると、こんな質問にも簡単に答えられます。
＊　海外旅行にパスポートを持って行くわけ
＊　東京の上野動物園にパンダがいるわけ
＊　ペルー日本大使公邸人質事件でペルー軍の強行突入が問題になったわけ

「国際」と付くとすごく難しそうですが、実は単純明解です。そうなりたい人は是非このクラスを取って下さい。みんなで楽しくかつ真剣に勉強しましょう！

（注・今年度は国際機構論が休講のため、９７年度の国際機構論で扱ったトピックがいくつか含まれていますが、学習内容は殆ど異なります。）

[講義計画]

＜前期＞　国際法の重要な原則を事例を通じて学んでいきます。
1.　国際法とは何か：　私たちに身近なルールや法律と国際法を比較します
2.　戦争と平和の法（1）：　第１次世界大戦と国際連盟の成立
3.　戦争と平和の法（2）：　第２次世界大戦とホロコースト
4.　戦後の国際秩序と国際法：　国際連合の設立から冷戦終結まで
5.　国家とは何か：　国家の権利と義務、革命・クーデター・新国家樹立　他
6.　条約の作成から終了まで：　日米安保条約と新ガイドライン
7.　国際平和と安全の維持：　湾岸危機と湾岸戦争、ＰＫＯと自衛隊
8.　外交使節と外交特権：　在ペルー日本大使公邸人質事件
9.　海外旅行に役立つ国際法：　旅行中にテロ事件に巻き込まれたら？　他

＜後期＞　学生の希望や重大ニュースによって予定を変更する場合があります。
10.　国家領域と国際法：　香港返還、日本の領土問題、海洋法、宇宙法　他
11.　経済と国際法：　貿易摩擦、ＷＴＯ、最恵国待遇、経済制裁　他
12.　環境保護と国際法：　地球温暖化、オゾン層、ワシントン条約　他
13.　子供の権利：　児童労働、児童売春、戦争と子供、ユニセフ、ＩＬＯ　他
14.　男性と女性：　よりよい社会をめざして、真の男女平等とは何か考えます
15.　戦後補償と国際法：　ｻﾝﾌﾗﾝｼｽｺ平和条約、従軍慰安婦、国籍条項　他
16.　軍縮と国際法：　通常兵器（対人地雷など）、核兵器、生物・化学兵器

[成績評価の方法]

中間試験（前期末）及び年度末試験（後期末）

[教科書]

横田洋三編　『国際法』　有斐閣　（初版第３刷）　１９９７年
『国際連合の基礎知識』（増補改訂４版）世界の動き社　１９９７年

[参考文献]　左より続く
『国際問題』（月刊）、『外交フォーラム』（月刊）、『世界週報』(週刊)
外務省『外交青書』（年刊）、防衛庁『防衛白書』（年刊）
朝日新聞社『朝日キーワード』（年刊）

[参考文献]

有斐閣　『国際条約集1998年』、三省堂　『国際関係法辞典』1995年、
大沼保昭編　『資料で読み解く国際法』　東信堂　1996年
国連広報局編　『創立50周年記念　国連年鑑特別号：国連半世紀の軌跡』中央大学出版部　1997年　奥脇直也他著　『国際法キーワード』有斐閣　1997年
田畑茂二郎他編　『ニューハンドブックス国際法』（第３版）有信堂　1996年
金　東勲他著　『ホーンブック国際法』（改訂版）　北樹出版　1995年
松井芳郎他著　『国際法』（第３版）　有斐閣Ｓシリーズ　有斐閣　1997年
島田征夫他編著　『ケースで学ぶ国際法』　成文堂、1995年
田畑茂二郎他編　『ケースブック　国際法』（新版）有信堂高文社 1995年
家　正治他著　『新版　国際機構』　世界思想社　1993年
最上敏樹　『国際機構論』　東大出版会　1996年
水村光男　『この一冊で世界の歴史がわかる！』　三笠書房　1996年
増田弘他編著　『日本外交史ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ：解説と資料』　有信堂高文社　1996年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
政治学原論		通　期	4 単位	捧　堅　二

[講義概要・学習目標]

ポスト冷戦時代のおける今日的問題意識から出発して、政治学の基本的諸概念について学ぶ。理論的な問題をできるだけ現実の問題とからめて論じたいと思う。その時々の時事問題にもマスメディアとは異なった観点から言及したい。

[講義計画]

＊(-3)政治学入門　(-2)情報・認識・概念・理論　(-1)政治と空間のメタファー
(0)政治と人間：権力と闘争
＊(1)近代国家　(2)国民国家　(3)正当性とナショナリズム　(4)国家装置と官僚制
(4-2)国家とアウトサイダー　(5)国家・外部・戦争　(6)巨大化した現代国家
＊(7)自由主義　(8)民主主義　(9)共和主義　(9-2)君主制再考
＊(10)議院内閣制と大統領制　(11)議会政治と国民代表　(12)政党と政党制
(12-2)現代日本の政党政治　(13)選挙　(13-2)９６年総選挙
＊(14)社会主義　(15)イデオロギー　(16)共産主義体制の崩壊　(17)総力戦の時代
(18)政治的多元主義　(19)国家・市民社会・アソシエイション
＊(20)日本政治の現在（随時）

[成績評価の方法]

出席はとらない、年度末の試験のみ

[教科書]

なし

[参考文献]

丸山真男（著）『現代政治の思想と行動』（未来社）
高畠通敏（著）『生活者の政治学』（三一新書）
その他は随時挙げる

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
政治学		通　期	4単位	村　山　高　康

［講義概要・学習目標］

政治学の内容は多岐にわたり、またその定義も一言では定め難い。そこで本講義は、以下のような限定された内容で進める。

前期：時代は近代以降、地域的には西欧の政治思想や学説を背景に、近代国家の特質や近代デモクラシーの原理を中心に論じる。単なる過去の問題ではなく、日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を考えるための基礎的な講義を目指す。講義は近代西欧の歴史的背景をもたどりつつ行うので、歴史への興味ももって受講してほしい。

後期：大変動の時代を迎えた現代世界の政治的課題を、国際政治システムの崩壊から近代国家の変貌、民族紛争や環境問題まで、多面的にとりあげて検討する。多くのテーマをとりあげるが、現代世界の様々な政治的課題の底に流れる本質的な問題をクローズ・アップできるような講義を試みたい。

前期と後期では講義スタイルは異なるが、もちろん、学説・理論・思想・制度など抽象度の高い前期の講義を充分に咀嚼しなければ後期の講義の理解度は浅くなるので、はじめから意欲をもって取り組まれたい。

［講義計画］

＜前期＞1．近代国家の成立と新たな政治原理の創出
2．近代国家の発展と近代デモクラシーの形成
3．近代国家における政治制度の発達
4．近代市民社会と市民政治理論の確立
5．日本の政治―近代化の諸問題

＜後期＞1．国際政治システムの形成と崩壊
2．近代国家の変貌
3．民族紛争・貧困と飢餓・環境破壊などへの政治学的アプローチ
4．自由主義・社会主義・ファシズムと現代世界
5．日本の政治―政策型思考へのアプローチ

［成績評価の方法］

前期・後期ともレポートを数回提出してもらい、これとあわせて学年末試験により評価を行う。

［教科書］

特定の教科書は使用しない。

［参考文献］

講義の中で随時指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
心理学	01	通　期	4単位	冷　水　啓　子

［講義概要・学習目標］

1　心理学の概要を理解させる。
2　乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。
3　心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。
4　心理的援助技法の概要について理解させる。

［講義計画］

1　人間の心理学的理解
　1）欲求・動機づけと行動
　2）感情・情動
　3）感覚・知覚・認知
　4）学習・記憶・思考
　5）知能・創造性
　6）人格
　7）適応と適応異常
2　人間の成長・発達と心理
3　人間理解のための心理学理論と技法
　1）基礎理論
　　①精神分析
　　②行動分析
　2）測定と診断
　　①発達
　　②知能
　　③性格
4　心理的援助技法の概要
　1）心理療法（個別面接法・集団面接法）
　2）家族心理療法
　3）行動療法

［成績評価の方法］

前期末と後期末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加、レポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

［教科書］

追って指示する。

［参考文献］

市川伸一（編著）『心理測定法への招待』（サイエンス社）
井上健治（著）『子どもの発達と環境』（東京大学出版会）
岩田純一・梅本堯夫『教育心理学を学ぶ人のために』（世界思想社）
中島義明（編）　『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）
河合隼雄・山中康裕（編）　『臨床心理学入門』（日本評論社）
福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）
松原達哉（編著）『最新　心理テスト法入門』（日本文化科学社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
心理学	02	通　期	4 単位	伊　藤　高　章

[講義概要・学習目標]

Psychology という語は、語源的には魂（たましい）もしくは霊（れい）に関する学問という意味である。そして、人類の歴史においてこの魂や霊のことがらは、長く宗教が扱ってきた。本講義では前期において、宗教と心理学との関係を明らかにしてゆくことを通し、近代心理学のもつ人間観の特徴を理解することを目指す。その際特に、フロイトとユングが展開した無意識に関する理論に注目する。後期においては、他者の魂の声に耳を傾ける姿勢を養う意味で、カウンセリング及び「カウンセリング・マインド」について学ぶ。

[講義計画]

以下の内容を含む
<前期>
諸宗教における心のケア
フロイトの宗教観・人間観
ユングの宗教観・人間観
近代心理学の展開
<後期>
カウンセリングの人間観
カウンセリング理論の前提
カウンセリングの理論

[成績評価の方法]

出席を重視する。学年末試験。

[参考文献]

随時指示する

[教科書]

C. G. ユング（著）『自我と無意識』（レグルス文庫 220）、第三文明社 1995
平木典子（著）『カウンセリングの話 増補』（朝日選書 375）、朝日新聞社 1989

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
心理学	03	通　期	4 単位	伊　藤　正　人
	04	通　期	4 単位	

[講義概要・学習目標]

現代の心理学では，実験や観察という客観的方法により，ヒトや動物の行うあらゆる行動を組織的に研究する．心理学の課題は，このような行動へ影響する様々な要因を探索し，行動の原理（法則）を定式化し，我々の日常場面における様々な複雑な行動を説明することである．近代的心理学の出発点は，ドイツの心理学者Wundtがライプチヒ大学に世界で最初の心理学実験室を創設した1879年にさかのぼる．現在までおよそ120年の現代心理学の歴史は，「こころ」という多義的で曖昧な対象をどの様に捉えるかということに腐心してきた足跡であるといえる．このような先達の努力を振り返ることは，真の意味で心理学の理解を深めることになる．
本講義は，心理学の歴史をたどりながら，現代心理学の課題を理解するための枠組みを提示する．また，教室で心理学の実験を行い，受講者が被験者となることで，心理学のより深い理解を促進させる．

[講義計画]

前期では，まず，心理学の歴史を振り返り，現代心理学の課題を提示する．続いて，心理学の各領域の課題を網羅的に眺めてみる．取り上げる領域は，行動・学習，動機づけ・情動，知覚・認知，パーソナリティである．
後期では，心理学の領域のうち，学習の問題に焦点を当て，「学習の原理」が我々の日常場面の様々な行動にどの様に適用出来るのかを考える．また，名作映画のなかに現れる心理学の問題を取り上げて題材としたい．取り上げる映画は，以下のものである．
「時計じかけのオレンジ」(1971年)，「オズの魔法使い」(1939年)，「羊たちの沈黙」(1991年)，「2001年宇宙の旅」(1968年)，「心の旅路」(1942年)
各自レンタルビデオ等で見ておくこと．

[成績評価の方法]

成績評価は，講義中に行う数回の小テストと学年末試験による．

[参考文献]

心理学事典　平凡社
現代基礎心理学全１２巻　東京大学出版会
行動心理ハンドブック　培風館
心理学双書全１０巻　有斐閣
「メイザーの学習と行動」二瓶社

[教科書]

糸魚川春木編「心理学の基礎」（前期）有斐閣
佐藤方哉　「行動理論への招待」（後期）大修館

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
心理学	05 06	通　期 通　期	4単位 4単位	加　納　真　美

[講義概要・学習目標]

発達心理学にはじめて触れる人のために、基本的なテーマと考え方を紹介する。ヒトが人となるために、こどもが発達するということの意味を探るために、身近な問題、現実社会、文化・歴史のなかの人間を対象として、生涯を見通す視点から探求していきたい。
講義では、最近の研究結果を吟味しながらも、狭く限定した事象だけに焦点づけるのではなく、受講生が現実生活を反映した身近な問題として考察できるように心がけたい。

[講義計画]

〈前期〉
Ⅰ発達心理学の歴史と方法
1.　発達心理学の起源
2.　発達心理学における研究方法
Ⅱ乳児期
3.　出生前、新生児期の発達
4.　乳児期における知覚発達
5.　乳児期における運動発達
6.　ピアジェ理論とその後
Ⅲ幼児期
7.　幼児期における認知の発達

〈後期〉
Ⅲ幼児期
8.　シンボルの出現
9.　象徴的な表象（遊びと描画）
10.　言語と思考
Ⅳ児童期
11.　児童期における認知発達
12.　学校教育の影響
Ⅴ青年期
13.　青年期
14.　成人期
15.　養護性－親となること

[成績評価の方法]

前期、後期各1回づつ計2回の定期テスト
小テストまたはレポート

[教科書]

ｼﾞｮｰｼﾞ・ﾊﾞﾀｰﾜｰｽ（著）、村井潤一（監訳）『発達心理学の基本を学ぶ』（ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房）

[参考文献]

柏木恵子　他（共著）『発達心理学への招待』（ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房）
柏木恵子　（著）『こどもの発達、学習、社会化』（有斐閣選書）
ﾊﾝｽ・ｱｲｾﾞﾝｸ（著）、田村浩（訳）『マインドウォッチング人間行動学』（新潮選書）
佐藤達哉（著）『知能指数』（講談社現代新書）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
統計学		通　期	4単位	井　上　勤

[講義概要・学習目標]

今年度開講する統計学は高校の「数学Ⅰ」の知識だけで学習できるよう心がけていきたい。
統計学の社会での必要性はコンピュータの発達と共に様変りしているのは事実であるが授業での計算は卓(講義では必携)を駆使できれば十分である。
今まで理工系の科目と思われていたが文科系学生にとってもその修得は不可欠である。
自分の頭で考え、手を動かす意欲的な学生の受講であってほしい。そうすれば自ずから理解も深まり、興味も湧いてくるものである。

[講義計画]

第Ⅰ部　確率
第Ⅱ部　統計
使用する教科書は上記の確率，統計それぞれ15章計30章に分れている。
1回の講義で1，2章ずつ選択をしながら区切りをつけて進めたい。
重点的には
Ⅰ．確率とは，確率分布（2項分布，Poisson分布，正規分布）
Ⅱ．資料の整理，母集団と標本，推定，検定
を取扱う

[成績評価の方法]

成績評価の主資料は前期(7月)，後期(1月)試験であるが，授業の出席状況，演習も加味する。またレポートを課すこともある。

[教科書]　森本宏明　大橋守（共著）
「これならわかる　確率・統計セミナー」（学術図書出版社）

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
論理学		通　期	4 単位	山 川 偉 也

［講義概要・学習目標］

論理的に考えることは、ものごとを学習するうえで基本的に大切なことである。しかし、いまの大学生の現状を観察していると、その基本のところが必ずしも充分でないふうに思われる。この講義は、その点の改善にいささかなりとも寄与しようとするものである。したがって、高度な論理学研究のことはひとまず置き、ごく初歩的な、しかも日常生活にもすぐ役立つ論理の基本のところを講義することを主眼とする。ただし、講義とは言っても、論理は訓練が肝心であるから、授業時間の半分は練習問題への取り組みで費やされることになるだろう。また、こうした漸進的な授業の性格もあって、毎回教室に顔を出していないと何をやっているのか分からないことになってしまうので、単位をきちんと取るつもりなら、授業には欠かさず出席することが必要である。

［講義計画］

前期
1．日常生活のなかの論理
2．思考の法則
3．命題の論理
4．試験

後期
1．簡単な復習
2．述語の論理
3．様相の論理
4．試験

［成績評価の方法］

毎回の出席、小テスト、期末試験の成績を総合して評価する。

［教科書］

教科書は今のところ定まっていないが、論理学を教科書なしでやるのは学生諸君にとっては辛いことなので、何とかしたいと考えている。決まり次第に授業時間中に知らせるようにする。

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
環境問題概論	01	通　期	4 単位	巖　圭 介

［講義概要・学習目標］

地球環境は、かつてない速度でその姿を変えている。今や環境の変化は全地球規模で起こっており、それを産み出しているのは人間が生存しようとする行為そのものと言っても過言ではない。医療の発達と栄養の充実が人口の爆発的な増加を招き、増えた人口を支えるため激化した土地からの収奪のため地球の緑が失われていくことで、地球大気の定常性が揺さぶられている。排出され続ける二酸化炭素による地球の温暖化は、はっきりと目に見える影響を示しはじめている。無数の生物を人間が絶滅に追いやっている一方で、支配できたと思っていた多くの害虫や病原菌が人間に逆襲しはじめている。

この授業では、これらの全地球的な環境問題が相互にきわめて密接に関連していることを示し、問題の根源的な解決がいかに難しいかを認識してもらいたい。

［講義計画］

講義はおおむね次のようなテーマのもとに、それぞれを互いに関連させながら進行する。

人口爆発
失われる熱帯雨林
砂漠化する大地
飢餓の拡大
拡散する汚染
滅びゆく生物たち
逆襲する害虫、病原菌
温暖化する地球

［成績評価の方法］

テストで環境問題相互の関連についての理解を試験するほか、身近なメディアで取り上げられる環境問題についてのレポートを課す。

［教科書］

なし

［参考文献］

適宜授業中に示す。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
環境問題概論	02	通期	4単位	鈴木善次

[講義概要・学習目標]

今日、人類を取り巻く環境は悪化の一途をたどっている。オゾン層の破壊、地球温暖化など地球規模の環境問題が顕現化しているからである。

本講義では、人間にとって環境とは何かに始まり、環境問題の本質についての検討を行い、その背景にある今日の科学文明について学生たちとともに考察する。

学生たちには、環境問題の本質、文明のあり方などを評価しうる知識の習得と能力を身につけてもらう。

[講義計画]

1. 人間にとっての環境（4コマ）
   - 環境とは何か　・環境の種類
2. 環境問題とは（6コマ）
   - 環境問題の意味　・環境問題の歴史的変遷
3. 今日の環境問題（15コマ）
   - 身近な環境問題　・地球規模の環境問題
4. 環境問題解決の方策（5コマ）
   - 技術的　・政策、経済面　・人々の意識変革

[成績評価の方法]

講義中に求める"感想文"と夏休み中に課す"レポート"及び学年末に行う試験の結果を総合的に評価する。

[教科書]

とくになし。

[参考文献]

鈴木善次著『人間環境教育論』（創元社）

その他 講義中に紹介する。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
情報システム概論 （旧情報処理概論）	01	通期	4単位	小池俊隆

[講義概要・学習目標]

企業活動にとって、コンピュータは無くてはならない存在になっている。さらにコンピュータはわれわれの日常生活の中にも入ってきた。家庭でも、インターネットなどを通じてさまざまな情報にアクセスすることができるようになり、それを使いこなすためには、いろいろなコンピュータ技術を利用することが必要になってきている。

このような状況の中で、社会人として活躍するためには、情報システムに関する広範な知識を常識として備えておく必要がある。

この講義では、上のような観点から、コンピュータの基礎、データの記憶と表現、ハードウェアとソフトウェア、データ処理とファイル、コンピュータと通信、経営と情報システム、などについて論じる。

[講義計画]

〈前期〉
- コンピュータの歴史
- 情報の表現
- ハードウェアの構成
- コンピュータでの情報処理方式
- コンピュータシステムの信頼性
- コンピュータとソフトウェア

〈後期〉
- ソフトウェア
- オペレーティングシステム
- ソフトウェアの開発
- ファイルとデータベース
- コンピュータと通信
- ネットワーク

[成績評価の方法]

期末試験により評価する。

[教科書]

井上義祐・小池俊隆他（共編著）『経営情報処理概論』（同文舘）

[参考文献]

宮崎正俊・白鳥則郎・川添良幸（共著）『コンピュータ概説［第2版］』（共立出版）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
東洋史	01 02	通　期 通　期	4単位 4単位	原山 煌

［講義概要・学習目標］

この講義は、中国世界を中心とする東アジア世界の歴史を考察することを目的とする。この地域の歴史は、「中華」の誇りをいだく漢民族と、その周辺に居住する諸民族（漢民族からは「夷狄」と呼ばれる）という2つのグループの葛藤によって展開されてきた、と見ることが可能である。実際、古来この地域では、次々に現れる北方の騎馬遊牧民族の活動によって、中国世界の実質自体が変貌する事もしばしば見られた現象である。

東アジア世界の歴史を通観するにあたって、この「華」と「夷」という2つの要素を考察の手がかりとして、歴史像を再構成して行く。現在、中華人民共和国は、多民族複合国家として多くの矛盾をはらみながら存在しているといえる。

中国へのしっかりとした認識を持つことは、現代社会においては避けては通れない課題であるが、この講義がその際の一つのヒントになれば幸いである。

［講義計画］

1．講義全体の構想
2．中国世界とは－自然と文化の枠組－
3．多民族複合国家の実像
4．「華夷思想」の形成
5．本講義独自の視点から、時代を追って、中国を中心とする東アジアの歴史を通覧する。

［成績評価の方法］

数回にわたって課す小レポートと、学年末におこなう論述式試験の成績とによって総合的に評価する。

［教科書］

特に指定しないが、「参考文献」欄にあげた文献類を一読してほしい。講義に関連する項目や地図などについては、適宜プリントを配布する。

［参考文献］

貝塚茂樹『中国の歴史』上・中・下　岩波新書　岩波書店。
宮崎市定『中国史』上・下　岩波全書　岩波書店。
講談社現代新書の中の、新書東洋史シリーズ。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
言語学		通　期	4 単位	清　水　真　一

［講義概要・学習目標］

「人間言語とは何か」をテーマとする。言語は我々にとってあまりに身近なものであり、この問いが真剣な考察の対象となることはあまりなかったのではなかろうか。本講では、科学としての言語学とその隣接分野を視野に含めながら、言語をマクロな視点で眺めると同時に、できうる限り明示的なかたちで言語にアプローチしてみたい。そのため、考えうる思考法と、分析の道具の基本から話を始め、「言語」に対する複数個のアプローチを紹介したい。あまりに身近な存在であると同時に人間を人間たらしめている言語につき、受講生各位に今一度思索を促し、各自各様の考えを醸成する契機となれば幸いである。

出席は特に重視する。

［講義計画］

(1)　人間言語とは？---他の「コミュニケーション」システムとの比較論的考察---
(2)　数理論的準備
　①　集合論
　②　論理学と形式システム
　③　言語、文法、オートマトン入門
(3)　言語システム瞥見
　①　「生成文法」
　②　句構造文法

［成績評価の方法］

原則として、定期試験、クイズ、出席に基づき総合的に評価する。

［教科書］

プリントを配布する。

［参考文献］